

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	大 竹 直 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	人の心の働きや行動をとおして心理学の基礎を学ぶ。目に見えない「心」を、科学的にはどのようにとらえ、どのような方法で探求してきたのか、ということ学ぶことで、より深い人間理解をめざす。また授業では、心理学の理論を、日常生活において経験する行動や問題、「私」という視点からも考えていきたい。
学 習 到 達 目 標	1. 心理学の概要を理解する 2. 心理学理論による人間理解を深める 3. 心理学的援助の概要と方法について理解する 4. 心理学的視点から、日常生活や自分をとらえ考えてみる
関 連 科 目	臨床心理学、発達心理学、カウンセリング、老年心理学
成 績 評 価 方 法	筆記試験、レポート課題、出席点の総合評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	心理学とは	医療と心理学 心理学から何を学ぶか	【精神看護学】 目標 2 1. 精神看護の基本概念 B. 精神分析モデル a)フロイトの発達論、b) 転移感情、c) 自我の防衛機制 【必修問題】 II-1 人間の特性 A 人間と欲求 a) 基本的欲求、b) 社会的欲求 【精神看護学】 目標 1 1. 精神の健康 B. 精神の機能と障害 a) 意識と意識障害、b) 知能と知能障害、c) 知覚と知覚障害 d) 思考と思考障害、e) 感情と感情障害、f) 意欲と意欲障害、g) 記憶と記憶障害、h) 認知と認知障害 【必修問題】 II 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 2 人間の成長と発達 B 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 e) 母子関係 【精神看護学】 目標 1 1. 精神の健康 A 精神の構造 a) 意識・前意識・無意識 b) イド・自我・超自我 【成人看護学】 目標 1 2. 成人に特有な健康問題の特徴 C 生活ストレスに関連する健康障害 a) ストレスの種類と生理的適応、b) 生活ストレスと健康障害	
2	心理学の歴史	心理学のはじまりと発展 ヴント、ゲシュタルト、行動主義、精神分析学		
3	感覚と知覚	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性		
4	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、欲求不満と葛藤		
5	記憶	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、高齢者の記憶		
6	学習	古典的学習、オペラント学習、観察学習		
7	発達と成長	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論		
8	パーソナリティ 1	パーソナリティの類型論と特性論		
9	パーソナリティ 2	心理検査、知能検査		
10	無意識と深層心理	精神の構造		
11	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、ピグマリオン効果		
12	カウンセリングと心理療法 1	カウンセリングの理論と方法		
13	カウンセリングと心理療法 2	援助のプロセス		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	カウンセリングと心理療法 3	医療現場における心理学的介入	【基礎看護学】 目標 2 1. 共通基本技術 A 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション技術、b) カウンセリング技術、c) グループワーク、グループダイナミクス B 人間の成長を促すための技術 a) 教育、b) 相談・指導	
15	定期試験	筆記試験		

教科書	プリント配布
参考書	「看護学生のための心理学」長田久雄編（医学書院） 「心理学 改訂版」詫磨武俊編（新曜社）

授 業 科 目 名	老 年 心 理 学	単 位 認 定 者	三 國 牧 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	高齢者の心理特徴の基本的知識を習得する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	① 老化の概念を習得する。 ② 生涯発達の観点から老年期の身体、感覚機能、記憶、注意と知覚、知能、人格について学習し、精神的疾患に関する老年精神医学的知識と死の問題について、高齢者の伽感的理解に役立つ心理査定方と心理療法について考える。 ③ 高齢者の生き甲斐感や高齢者を取り囲む家族対人関係についての理解を深める。
関 連 科 目	心理学 発達心理学 成人・老年看護学概論
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	高齢化社会	高齢化社会の意味と私たちのライフサイクルについて考える		
2	老化について	老化とは何かについて考える		
3	高齢者の記憶	記憶の種類と高齢者の特徴		
4	高齢者の知覚と注意	知覚と加齢との関係		
5	知能と加齢	知能の発達と加齢との関係。老年期の知能の特色		
6	人格と加齢	老年期の人格的特徴		
7	老年期の適応	人格特徴と適応の関係、ストレスフル・ライフイベントと適応の関係		
8	老年期の精神的老化と精神障害	器質性精神障害、機能的な精神障害など		
9	死と死にゆく過程	自らの死をどのように捉えるか、また身近な人の死をどのように受け止めるか		
10	知能・記憶機能の測定	高齢者を対象とした知能検査、痴呆性老人のスクリーニングテスト、行動評価スケールなどについて		
11	人格機能の測定と心理療法	投影法や質問紙などの心理測定と高齢者を対象にした心理療法について		
12	高齢者の主観的幸福感と社会参加	主観的幸福感とその意味		
13	老年期の家族・対人関係と社会生活	高齢者とその家族、また高齢者を取り囲む社会的状況について考える		
14	老後の社会制度と老人福祉サービス	老後保障についてと福祉サービスの内容		
15	定期試験	筆記		

教 科 書	「現代心理学シリーズ 14 老年心理学」 下仲 順子編 (培風館)
参 考 書	「男の本音・女の真実 老年期の心」 氏原寛+山中康裕 (ミネルヴァ書房) 「高齢者の心理が分かるQ&A」 井上勝也監修 (中央法規)

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護や医療は、ある面では教育的でなければならない。そういった意味で本学学生は皆、教育する立場になるという意識が必要である。 人格を形成し、環境に適応し、環境を改善して自分や他者がよりよく生活できるようにするための学習という活動と、それに対する価値志向的働きかけである教育についての基本的事項を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論）を理解し、教育の目的等に沿って広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができる。 青少年の問題行動について関心をもち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができる。
関 連 科 目	生活学 家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング 小児看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	教育	青少年の問題行動 原因：個の資質・家庭・学校・社会・法律		
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」		
3	学と習 (動機付け)	学ぶことの面白さ、 「覚える」と「分かる」		
4		動機づけ (外的・内的)		
5	学校教育	オオカミに育てられたアマラとカマラ		
6	学校教育の効果 教育内容	事例研究 1 量の教育から質の教育へ 知識から学び方へ 教育課程		
7	教育制度	現行の教育制度 教育制度の変遷		
8	ゆれる教育改革	「生きる力」と「問題解決の能力」 総合的な学習の時間		
9	人権の教育	「総合的な学習の時間」「人権の教育」		
10	心の教育 道徳教育	宗教的心情の教育 道徳教育と宗教教育		
11	教育関係法制度	教育勅語～教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係		
12	発達と教育	教育の形態と学習者としてのヒトの「発達」 胎児期・乳児期・児童期・青年前		
13	学校不適応	学校不適応・いじめ・引きこもり 事例研究 2		
14	特別支援教育	ノーマライゼーション		
15	定期試験			

教 科 書	プリントによる
参 考 書	授業時に紹介

授 業 科 目 名	生 命 科 学	単 位 認 定 者	澤 田 只 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	パワーポイント／ビデオ、適時配布するプリント資料
科 目 の 目 的	ヒトを含む生物の生命現象を、人間が多様な生物と釣り合いながら、共生していくために広い視野に立ち、科学的、論理的思考力を育て、自由で主体的な判断と行動ができるように、また、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解していくことができるように、科学的思考の基盤や人間生活へのかかわりを学ぶ。そして、これから学んでいく多くの看護学・理学療法学専門科目の基盤となるよう、医療の対象である「人間」をより深く理解することをねらいとする。最新の情報を交えながら、生命に対する感動を共有したい。
学 習 到 達 目 標	人間も生物の1種であり、その生命維持のしくみを他の生物と比較しながら、「人間」とその環境とのかかわりを深く理解し、他の生物とどれくらい共通点があり、どんな関わりをもって暮らしているのかを理解できるようになることである。
関 連 科 目	解剖学 生理学 生化学 栄養学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）、小テスト及びレポート（30%）などにより評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生命の起源	生命誕生の準備（化学進化） 原始生命の誕生 生命を支える分子		
2	生命の単位	細胞の構造と機能		
3		生体の構造と機能		
4				
5	生命現象とエネルギー	酵素 共通のエネルギー源 光合成 呼吸		
6	細胞の増殖	細胞周期 ヒトの配偶子形成		
7	生命をつなぐ遺伝情報	メンデルの法則		
8		遺伝子の本体 DNAの働き ヒトの遺伝 遺伝と環境		
9		* <u>Midterm Exam</u> *		
10	発生・分化	受精		
11		発生過程		
12	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ		
13		性の分化とホルモン		
14	ヒトへの進化	進化とその要因 進化の事実と証拠 ヒトの進化		
15	生物と地球環境	ヒトと地球環境 環境汚染化学物質—環境保全 * <u>Final Exam</u> *		

教 科 書	「人の生命科学」渡辺 強三、佐々木 史江、堀口 毅著（医歯薬出版株式会社）
参 考 書	「生命の意味」桑村哲生 著（裳華房）

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	村 上 隆 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握し、実践の場面での適切な行為を可能にする指針を得るとともに、さらにこれらの倫理的な諸問題の背景となっている哲学的・宗教的なことならについての基礎的な理解を得るようにすることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1、現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2、実践の場面で倫理的な諸問題に関して適切に行う指針を獲得する。 3、西欧の医学・医療における哲学的・宗教的な背景について概観を持つ。
関 連 科 目	看護学概論 成人・老年看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 生命科学 医療民俗学 法学
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席率等の平常点を加算する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生命倫理導入	生命倫理学の形成の歴史的背景	必修問題IV、看護の倫理 A、 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 成人看護学 目標 3 5、終末期の看護 A、緩和ケア d) 悲嘆のケア 基礎看護学 目標 1 1、看護の基本となる概念 B、看護の対象としての人間 a) 人間のとらえ方 b) 人間と環境 4、看護の倫理 A、基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームドコンセント 必修問題 II 1、人間の特性 B、患者の特性 a) QOL 成人看護学 目標 3 5、終末期の看護 A、緩和ケア c) QOL の保証 1、母性看護の概念 B、母性看護と理論 a) 妊産褥婦・退治および 新生児の権利と擁護 b) 就労と母性 5、終末期の看護 A、緩和ケア a) 苦痛のアセスメント b) 疼痛コントロール c) QOL (クオリティ・オブ・ライフ) の保証 6、高齢者の終末期の看護 A、終末期にある高齢者の看護 a) 高齢者の死のとらえ方 b) 死の迎え方の意向<リ	
2	生命と身体 (1)	伝統的宗教における生命と身体		
3	生命と身体 (2)	古代哲学における生命と身体		
4	生命と身体 (3)	近代哲学における生命と身体		
5	死の問題 (1)	伝統的な社会における死		
6	死の問題 (2)	近代社会における死		
7	人間の身体	疎外される身体と加工される身体		
8	身体と所有	近代的所有権と身体		
9	人権と医療 (1)	脳死と臓器移植		
10	人権と医療 (2)	インフォームドコンセント		
11	誕生と倫理	妊娠中絶と新生児殺し		
12	死と倫理	終末期医療と安楽死・尊厳死		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	生殖と倫理	生殖技術と倫理	ビングウイル) と対応 c) 看取りに対する合意の形成 d) 死の受容への看護 g) 苦痛の緩和と安楽への看護 h) 臨死期の対応 i) 家族の参加と家族への看護 1、母性看護の概念 B, 母性看護と倫理 a) 妊産褥婦・退治および新生児の権利と擁護 b) 自己決定の尊重 c) プライバシーの保護	
13	医療関係倫理	医療関係者一患者間の倫理	1、看護の基本となる概念 E, 看護倫理 a) 患者の権利擁護 b) 患者のプライバシー保護 c) 看護師の倫理規定 d) 職業倫理	
14	医療と正義	医療資源の配分の倫理	1、社会保障の理念 A, 日本の保健医療福祉活動の基本方向 c) 倫理	
15	動物の生存権	生命倫理と環境倫理		

教科書	プリントによる。
参考書	講義の展開のなかで適宜指示する。

授 業 科 目 名	ス ポ ー ツ 科 学	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキスト中心に解説する。講義内容の理解を深めるため、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連する最近の話題についてプレゼンテーションする。
科 目 の 目 的	看護師および理学療法士の資格を目指す学生に対して、リハビリテーションとスポーツ、スポーツ科学、運動生理学領域からスポーツにおける生体の生理的变化、スポーツが身体におよぼす効果および健康づくりを実践するための理論について学習する。
学 習 到 達 目 標	運動におけるリハビリテーション、運動における生体の生理的变化（筋神経系、呼吸循環系、肥満関連）などがおおむね理解できる。 運動における生体の生理的变化（筋神経系、呼吸循環系、肥満関連）などのキーポイントがおおむね理解できる。 教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関 連 科 目	生理学 解剖学
成 績 評 価 方 法	定期試験・出席点の総合評価とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ガイダンス	講義概要・成績評価等説明		
2	講義	リハビリテーションとスポーツ		
3	講義	スポーツ時における筋収縮とエネルギー供給系		
4	講義	スポーツ時における神経系の役割・動員について		
5	講義	筋の収縮様式と筋力		
6	講義	スポーツと循環		
7	講義	スポーツと呼吸		
8	講義	身体組成と肥満の判定		
9	講義	メタボリックシンドローム		
10	講義	肥満とスポーツ		
11	講義	スポーツと体温調節		
12	講義	各種スポーツ時における筋疲労の要因		
13	講義	老化に伴う身体機能の変化		
14	講義	スポーツと栄養		
15	試験	試験		

教 科 書	「入門運動生理学」勝田茂（杏林書院）
参 考 書	講義時に案内

授 業 科 目 名	ス ポ ー ツ 科 学 実 習	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	スポーツ（実技）を行う。コンディショニングでは、各自の体力の現状を把握し、体力の調整を行う。選択スポーツでは、体育館（屋内）ならびにグラウンド（屋外）、テニスコートにて各自選択したスポーツを行う。車いすとスポーツでは、車いすの操作およびスポーツを実習しながら障害者の身体機能の理解を深める。運動処方では、障害者および高齢者などに対応すべき運動処方を立案し、指導できるよう実習する。スポーツのできる服装、スポーツにふさわしいスタイル（トレーニングウェア、屋外用シューズ、屋外用シューズ）で出席すること。私服は認めない。
科 目 の 目 的	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのためのスポーツの実践の動機づけを養う。スポーツの実践からクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学 習 到 達 目 標	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのため、いろいろなスタイルのスポーツを実践する。クラブ活動やスポーツ大会の参加へ発展できる。
関 連 科 目	スポーツ科学
成 績 評 価 方 法	出席、態度、意欲、レポートの総合評価（運動能力の優劣での絶対評価は行わない）。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		本年度開講せず		

教 科 書	
参 考 書	「入門運動生理学」勝田茂（杏林書院）

授 業 科 目 名	総 合 英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	前期はテキストに沿って進めるが、後期はプリントを使用する。
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組めるように総合的な英語力を伸ばす。 専門分野の基本英語語彙力をつける。
学 習 到 達 目 標	読む、書く、聞く、話す の4つの技能をまんべんなく練習する。 看護の基本的単語、表現を覚える。
関 連 科 目	【関連する教養科目】—英語表現 英語基礎
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、前期、後期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明、自己紹介		
2	Unit 1	Stress and Anxiety		
3	Unit 2	Vitamins and Supplements		
4	Unit 3	Alzheimer' s		
5	Unit 4	Music Therapy		
6	Unit 5	Laughter as Medicine		
7	Unit 6	Robotic Surgery		
8	Review			
9	Unit 7	Safe Anesthetics		
10	Unit 8	Physical Therapy		
11	Unit 9	Cosmetic Surgery		
12	Unit 10	Vaccine Availability		
13	Unit 11	Safe Blood and AIDS Prevention		
14	Unit 12	The Visible Human Project		
15	前期末試験			
16	プリント1	Sudden Infant Death Syndrome		
17				
18	プリント2	Life-Style Related Disease		
19				
20	プリント3	Allergy & Asthma		
21				
22	Review			
23	プリント4	Depression		
24				
25	プリント5	Smoking, Alcohol		
26				
27	プリント6	Anorexia		
28				
29	Review			
30	後期末試験			

教 科 書	「English for Health and Medicine, ビデオレポート:健康と医療」 John S Lander (朝日出版社) 2006 年 「カタカナでわかる医療英語」 飯田恭子 (医学書院) 2004 年
参 考 書	英和辞典(必携)

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って、ロールプレイなどへの履修者の参加と共に進める。
科 目 の 目 的	様々な医療の現場での基礎的な英語表現を身につける。
学 習 到 達 目 標	医療現場で必須の英語の語彙、表現の習得。 覚えた語彙、表現がスムーズに言えること。
関 連 科 目	【関連する教養科目】—総合英語 英語基礎
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Introduction	授業の説明		
2	Unit 1	急に話しかけられたときの対応		
3	Unit 2	自己紹介のときの基本的質問と答え方		
4	Unit 3	丁寧な質問の仕方		
5	Unit 4	初診の患者さんへの対応		
6	Unit 5	道順と尋ね方と答え方		
7	Unit 6	症状の尋ね方①		
8	Review			
9	Unit 7	症状の尋ね方②		
10	Unit 8	症状の尋ね方③		
11	Unit 9	薬の服用に関する表現		
12	Unit 10	予約の取り方の表現		
13	Unit 11	手術に関する表現		
14	Unit 12	入院患者への質問		
15	前期末試験			
16	プリント1、2	電話予約、受診手続き		
17	プリント3、4	診察の順番待ち、再診		
18	Review			
19	プリント5、6	入院の指示、手続き		
20	プリント7、8	患者さんに質問、お風呂の許可		
21	Review			
22	プリント9、10	薬の指示、検査の指示		
23	プリント11、12	内科、外科		
24	Review			
25	プリント13、14	小児科、歯科		
26	プリント15、16	眼科、耳鼻咽喉科		
27	Review			
28	プリント17、18	産婦人科、整形外科		
29	プリント19、20	皮膚科、泌尿器科		
30	後期末試験			

教 科 書	「クリスティーンのやさしい看護英会話」知念クリスティーン（医学書院）2003年 「アタマとオシリでわかる医療英単語」飯田恭子（医学書院）2005年
参 考 書	英和辞典（必携）

授業科目名	医療英語・外書講読	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って進める。精読。
科目の目的	医療・看護分野の文献、読み物を読みこなせる英文読解力の向上
学習到達目標	正確により速く英文を読む力をつける。 医療関連分野の語彙の習得。
関連科目	【関連する教養科目】—国際医療協力英語 【関連する専門基礎科目】—国際医療協力
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、前期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明、Chapter 1 Triage を読み始める。		
	Chapter 1			
2	Chapter 1			
3	Chapter 1			
4	Chapter 1			
5	Chapter 1			
6	Chapter 2	Chapter 2 A Little Too Greene		
7	Chapter 2			
8	Chapter 2			
9	Chapter 2			
10	Chapter 2	Chapter 3 High Drama		
11	Chapter 3			
12	Chapter 3			
13	Chapter 3			
14	Chapter 3			
15	前期末試験			

教科書	「Episodes from ER 医療ドラマ ER で学ぶ英語」田中芳文 編 (朝日出版社) 2002年
参考書	英和辞典 (必携)

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力 英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	基本的にテキストに沿って進めるが、適宜プリント、ビデオなども用いる。
科 目 の 目 的	異文化への理解、臨床場面における英語のコミュニケーション能力の向上
学 習 到 達 目 標	1年次から学んだ医療現場における英語表現の定着。 世界の様々な国の Health に関する実情を知り理解する。 リスニング力向上。
関 連 科 目	【関連する教養科目】— 『医療英語・外書講読』 【関連する専門基礎科目】— 『国際医療協力』
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Introduction	授業の説明		
2	Unit 1	困った時の英語/診療科名/患者の基本情報		
3	Unit 2	診療手続き/症状		
4	Extra 1	海外へ出かけるときの英語		
5	Extra 2	海外へ出かけるときの英語		
6	Unit 4	病歴の聴取/病名		
7	Unit 5	検査		
8	Extra 3 (Reading)	リハビリテーション		
9	Unit 7	予防接種		
10	Unit 8	手術		
11	Unit 9	術後/日常看護		
12	Unit 10	心のケア/文化や宗教の違い		
13	Extra 4 (Reading)	出生前診断、中絶		
14	Extra 5 (Reading)	出生前診断、中絶		
15	後期末試験			

教 科 書	「クリスティーンのレベルアップ看護英会話」 知念クリスティーン (医学書院) 2003年 「ネイティブ感覚でわかる医療動詞」 飯田恭子 (医学書院) 2005年
参 考 書	英和辞典 (必携) 英英辞典

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	王 麗 華
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループでの会話練習等。
科 目 の 目 的	「読む・書く・聞く・話す」の四能力のうち、特に「聞く・話す」に重点を置きながら、日常会話ができる語学力を習得させる。また、中国語学習を通じて、中国の地理・文化・歴史・社会・生活・習慣などを理解する。視野を広め、異文化への理解をより一層深めさせ、国際化する現代の社会に適応する人としてのあり方を考えさせる。
学 習 到 達 目 標	中国語学習上に必要不可欠の発音を重視し、敬遠されがちな発音をいかに楽しく身につけるかを工夫する。身近かに感じさせる用例を使って、文法を組み入れます。 週間授業のタイトルに文法表現は多く表示していますが、特に重視して授業するのではなく、楽しい会話のなかに文法形態を学生に理解させ、中国語の身近さと簡易さを感じさせます。楽しい中国語の基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記と会話のテストを行う。出席数に受講時の学力とテスト成績を参考の上、成績を評価する。期末テスト不参加の場合評価しない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	発音の基礎 (1)	1. ガイダンス、発音 (四声、音節)		
2	発音の基本 (2)	2. 発音 (単母音、複母音)		
3	発音の基本 (3)	3. 発音 (子音)		
4	発音の基本 (4)	4. 発音 (軽声、変調規則、r 化音)		
5	会話の基本「あいさつ」	5. 発音練習、簡単な日常会話、あいさつ、自己紹介。		
6	簡単なあいさつ	6. 発音練習 数字を数える、数の単位、日付の言い方。		
7	会話から日常用語、中国語への興味を注ぐ	7. 発音練習 曜日、時間の言い方、お金に関する表現。		
8		8. 中間試験		
9	表現文型 (1)	9. 「是」の文など		
10	表現文型 (2)	10. 動詞の文「食べる」/所有を表す「有」の用法		
11	表現文型 (3)	11. 「いつ？」疑問詞疑問文を使う		
12	表現文型 (4)	12. 「寒い～」形容詞の文		
13	応用編 (1)	13. 体の部位を言える。		
14	応用編 (2)	14. 「ご家族は何人ですか？」等。		
15		15. 期末試験		

教 科 書	「話してみたい中国語」高橋絵里子著 (ナツメ社)
参 考 書	

授 業 科 目 名	ス ペ イ ン 語	単 位 認 定 者	浅 香 武 和
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	スペイン語の基本的文法事項を学び、さまざまな表現形式を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	会話形式の構成によるテキストを使用しながら、スペイン語の表現を理解して簡単なスペイン語会話ができることを学習目標とする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	出席重視・定期試験から評価する。受講者は予習して授業に臨むこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	スペイン語の発音	スペイン語のアルファベット 27 と発音		
2	綴りと発音	ch, ll, rr など		
3	母音と子音	強母音と弱母音、二重子音、母音の分立		
4	音節の分け方	4つの分け方		
5	アクセントの位置	母音または子音 n, s で終わる語、n, s 以外で終わる語		
6	文法・主語と動詞	会話・私はサラマンカにいきます。私は日本の出身です。		
7	冠詞と名詞	会話・名前と名字		
	国名と形容詞	会話・駅にて		
8	平叙文と疑問文	会話・タクシーに乗る		
	主語の省略	表現・…したい、望む。場所の表現		
9	文のイントネーション	丁寧な表現、時間をたずねる表現、挨拶の表現		
10	直説法現在形の活用	動詞-ar, -er, -ir の活用		
11	存在動詞について	特定の存在と不特定の存在		
12	指示代名詞	これ、それ、あれ 男性形と女性形の単数と複数		
13	数詞と命令	値段をたずねる表現、数量をたずねる表現		
14	所有形容詞	前置形と後置形		
15	定期試験	筆記試験		

教 科 書	「これがスペイン語だ」浅香武和（大学書林） 「プログレッシブスペイン語辞典」（小学館）
参 考 書	「基本スペイン語文法」江藤一郎（芸林書房）

授 業 科 目 名	音 楽 学	単 位 認 定 者	峰 岸 小 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	音楽療法の普及などにより、音楽の治療効果は科学的にも証明されつつあるが、音楽は病気の治療のみならず、健康な人の精神にも大きな影響を与える。この講義では、音楽作品を歴史的背景、作曲家のエピソード等、多くの観点から学び、作品を深く理解し、身近に親しむための関心を引き出ししていく。それにより、生涯にわたり豊かな感受性、知性、教養を磨き、社会に貢献してゆきたいという熱意を導く。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽は得意・不得意ではなく、いつも人と共にあり、心の表現手段の一つであり、又、人と人とのコミュニケーションの道具にもなることを認識する。 ・ 音楽に感動する喜びを体験する。 ・ 現代人の生活に氾濫している種々雑多な音に注意を向け、健全な音楽観を持ち、職場や家庭において進んでその音楽環境を整え得る感覚を持つ。
関 連 科 目	教養科目—心理学 老年心理学 教育学 生活学 家族学 地域社会学 国際関係論 専門基礎科目—発達心理学 健康管理論 カウンセリング 国際医療協力 専門科目—看護学概論 成人老年看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 地域看護学概論
成 績 評 価 方 法	レポート、授業後の提出物（感想文）、授業に取り組む姿勢等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	音楽の起源	原始社会の中で音楽はどのように生まれたのか。 文明の発達と共に音楽はどの様に発達していったか。 楽譜（記譜法）の発達 等 音楽を構成する三要素（リズム、メロディ、ハーモニー） 様々な楽譜の読み方 等 現代社会における音楽療法 心の病気と音楽療法 高齢者と音楽療法 子供と音楽療法 健康な生活と音楽、現代人を取り巻く音楽環境 医療施設での音楽環境 バロック音楽からオペラまで、音楽療法で使われる音楽を中心に学ぶ。 モーツアルト、シューベルト他オーストリアの作曲家達の音楽 バッハ、そしてベートーヴェンの人と音楽 近代フランス音楽の響き ロシア民謡、バレエ音楽 日本の伝統音楽、民謡、愛唱歌などを通して、又、他の国々との比較において、自分の国の文化を再認識する。 アメリカ、スペイン、ハンガリー、ブルガリア、チェコ、ポーランド、イギリス等の音楽		
2	音楽の発達			
3	音楽の基礎知識			
4	音楽療法とは何か			
5	音楽療法の実際 1			
6	音楽療法の実際 2			
7	音楽療法の実際 3			
8	音楽療法の実際 4			
9	イタリアの音楽			
10	オーストリアの音楽			
11	ドイツの音楽			
12	フランスの音楽			
13	ロシアの音楽			
14	日本の音楽、アジアの音楽			
15	その他の国々の音楽			

教 科 書	特に使用しません。
参 考 書	講義の中で必要に応じて推薦します。

授 業 科 目 名	日 本 の 近 代 文 学	単 位 認 定 者	杉 本 優
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	近代（明治以降）の小説、詩歌などから対象を選び、1回ないし2回程度で完結する進度でいろいろな作品を読んでいく。文学のさまざまな表現様態にふれると同時に、読む過程での問題意識の多様な展開をねらう。
学 習 到 達 目 標	1. 時代、ジャンル、あるいは流派の違いによる読みのコードの相違を感知する。 2. 方法的な読みの意識化、深化をめざす。 3. 文学表現がはらむ人間探究の豊かな知を習得する。
関 連 科 目	関連すると思われる教養科目：心理学 教育学 生命倫理 性別の社会科学 環境論
成 績 評 価 方 法	筆記試験に平常点を加味して評価する。授業中に小テストを課す場合もある。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	訳詩の方法・訳詩の魅力	コクトーの2行詩をめぐる3つの訳詩を比較検討する。		
2	まど・みちお「ぞうさん」	阪田寛夫の「遠近法」を手がかりに、まどの詩表現を考える。		
3	啄木の短歌	晩年の啄木の評論や短歌作品を通して、その短歌観を理解する。		
4	啄木の短歌	(承前)		
5	堀辰雄と中野重治	堀辰雄の「幼年時代」によって、彼と中野の幼年時代の意味を考える。		
6	丸山薫の世界	『物象詩集』までの彼の詩の世界を概観する。		
7	丸山薫の世界	(承前)		
8	X	題材未定（あるいは進度調整）		
9	朔太郎の散文詩	萩原朔太郎の散文詩から彼の思想・人生観にふれる。		
10	清岡卓行「希望」	小説「朝の悲しみ」の一節から詩「希望」の重層的な意味をとらえる。		
11	清岡卓行「希望」	(承前)		
12	詩集『音楽』を読む	詩のアラベスク、アブストラクト、アヴァンギャルド。		
13	詩集『音楽』を読む			
14	X	(承前)		
15	まとめ 試験	題材未定（あるいは進度調整）		

教 科 書	テキストは配布プリントを原則とする。
参 考 書	授業中に指示する。

授 業 科 目 名	生 活 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	人は社会生活と私生活の両方の世界を生活している。社会生活の領域のありようは私生活のありようにより大きな影響を及ぼしている。この科目では、社会生活の領域との関係を念頭におきつつ私生活の領域に軸足を置き、本当に豊かな生活とは何かを考える
学 習 到 達 目 標	1. 私生活のありかたを社会生活のありかたと関連づけ、総合的にとらえられるようになる 2. 生活の質 (QOL) について十分な認識・知識を獲得する 3. 自身の将来の生活について具体的に考えられるようになる
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 一 家族学 性別の社会科学 地域社会学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】 一 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】 一 地域看護学概論 地域看護活動論 I・II・III 在宅看護論 看護学概論 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	生活と QOL (1)	生活 QOL—生命の質、生活の質、人生の質		
2	生活と QOL (2)	生活の質の構造と要素		
3	医療における QOL 評価 (1)	出発点としての QOL 評価、QOL の評価方法、		
4	医療における QOL 評価 (2)	評価に基づく QOL 改善向上の取り組み (疾患別)		
5	生活習慣 (1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ＝健康教育、疫学的に知られている生活習慣病のリスク要因		
6	生活習慣 (2)	生活習慣病のリスクの回避①食生活		
7	生活習慣 (3)	生活習慣病のリスクの回避②運動、③喫煙		
8	生活習慣 (4)	生活習慣病のリスクの回避④飲酒、⑤ストレス		
9	家庭経済 (1)	資本主義経済の中での家庭経済の位置、家庭経済の機能①モノの購入—家計支出、家計支出の内訳		
10	家庭経済 (2)	家庭経済の機能①モノの購入—家計支出の内訳 (続)、勤労者世帯の家計支出の特徴、モノの購入に着目した家庭経済の位置		
11	家庭経済 (3)	家庭経済の機能②労働力の再生産—労働力の再生産、労働力の再生産に着目した家庭経済の位置		
12	家庭経済 (4)	家庭経済の機能③貯蓄—経済循環の出発点としての貯蓄、		
13	家庭経済 (5)	家庭経済の機能④納税・社会保険料		
14	家庭経済 (6)	家庭経済の源泉①所得、勤労所得、事業所得、財産所得、移転所得		
15	定期試験	家庭経済内部の活動—6つの活動の循環：稼得、モノの購入、家事労働、消費、労働力の再生産、貯蓄、常勤共稼ぎ世帯の収入と支出、		

教 科 書	使用しない。プリントによる (ファイルを用意のこと)
参 考 書	

授 業 科 目 名	家 族 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識技術の形成を基礎づけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 近代家族の特徴、家族機能、家族周期、家族境界など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活と職業生活のあり方等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関 連 科 目	関連し合う教養科目－生活学 性別の社会科学 地域社会学 心理学 老年心理学 この科目が基盤となる専門基礎科目－発達心理学 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目－地域看護学概論 地域看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 在宅看護論 看護学概論 成人・老年看護学概論 小児看護学概論 小児看護学Ⅰ・Ⅱ 小児看護学特論 母子看護学特論 母性看護学特論 精神看護学概論 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族(世帯)、b) 住居、 c) 家族周期 B. 家庭生活の基本機能 a) 生産・労働 2. ライフスタイル A. 家族の機能と役割 a) 夫婦の役割機能の変化、b) 家族内介護者の変化 c) 育児と介護の社会化、 d) 家事機能の変化 1. 生活基盤 B. 家庭生活の基本機能 b) 教育・養育、c) 保健・福祉、d) 生殖、 d) 慰安・交流 1. 生活基盤 C. 生活単位 a) 家族(世帯) 【必修問題】 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 4 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護	【地域看護学Ⅰ】 目標1 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う 2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 【地域看護学Ⅱ】 目標：あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近方法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 【地域看護学Ⅰ】 目標2 地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と、健康課題への個人ならびに地域組織の対処行動についての理解力を問う 3. 社会環境の変化と健康
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース		
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスクー夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期		
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから		
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族		
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ、		
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族① 親族 婚姻		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	家族をめぐる制度 (2)	民法第四編 親族② 親子 後見 民法第五編 相続 戦前明治民法における「家」制度	a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) ノーマライゼーション 【必修問題】 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う	課題 C健康に影響する生活環境要因 b) 生活構造 c) 家族形態 d) 労働形態 【地域看護学II】
9	家族をめぐる制度 (3)	「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴—氏と墓	3 患者と家族 A 家族の機能 a) 家族関係 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う	3. 家庭訪問 A 家族保健指導 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 6. 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 b) 就労女性 【地域看護学I】
10	家族をめぐる制度 (4)	“夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案	2. ライフスタイル B. ライフスタイルの変化 b) 少子化、健康寿命の延長 e) 家族観の多様化 3. 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 【地域看護学II】 6. 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 c) 子どもの虐待、女性への暴力 9. 精神保健指導 C 社会病理を背景とするおもな疾病 d) 家庭内暴力 8. 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導
11	家族機能の破綻とその解決援助(1)	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティックバイオレンス	1. 家族の機能と役割 c) 育児と介護の社会化 2. ライフスタイル B. ライフスタイルの変化 b) 少子化、健康寿命の延長 e) 家族観の多様化 3. 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	6. 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 c) 子どもの虐待、女性への暴力 9. 精神保健指導 C 社会病理を背景とするおもな疾病 d) 家庭内暴力 8. 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導
12	家族機能の破綻とその解決援助(2)	児童虐待への対応—予防、発見、危機介入(初期対応)、問題解決のための長期的対応	3. 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	9. 精神保健指導 C 社会病理を背景とするおもな疾病 d) 家庭内暴力 8. 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導
13	家族機能の破綻とその解決援助(3)	児童虐待への対応の鍵概念—自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	3. 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	8. 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導
14	家族機能の破綻とその解決援助(4)	ドメスティック・バイオレンス 総合的対策の必要 総合的対策の構成要素となる個別策 配偶者暴力防止法 加害者対応	3. 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	
15	定期試験	筆記試験		

教科書	プリントによる
参考書	「21世紀家族へ【新版】」落合恵美子(有斐閣) 「系統看護学講座 別巻15 家族論・家族関係論」(医学書院)

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	伊 藤 亜 都 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	我々の生活にとって地域社会とのかかわりは不可欠である。地域社会に関する基本的な知識を学びながら、現代社会で起こっている環境、家族、教育、福祉、防災などの問題について地域社会が果たせる役割を理解することを目的とする。講義を通して、地域社会において現在起こっている社会問題、自分の身近な地域などに対して関心をもつこと、理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関 連 科 目	関連し合う教養科目 －老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 －地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 －精神地域看護学 地域看護学概論 地域看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 災害看護
成 績 評 価 方 法	講義時間内に、何度か小レポートを行う。また、それぞれが地域社会について考えを持つことを期待しているため、グループごとに意見を出し合うワークショップを行う場合もある。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティの基本的知識	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。 1. 生活基盤 C. 生活の場と健康 a) 都市 b) 農村・漁村 c) へき地 D. 労働と健康 a) 仕事内容 b) 労働時間 c) 仕事と余暇 3. 人間の集団としてのほたらき B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク C. 職場における人間関係 a) 上司との関係 b) 組織のなかでの役割 c) 同僚との関係	
2	地域社会学の概論(2)	戦後日本における「地域コミュニティ」の歴史①		
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ①		
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ②		
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ③		
6	災害と地域社会(1)	阪神大震災から学ぶ ①		
7	災害と地域社会(2)	阪神大震災から学ぶ ②		
8	災害と地域社会(3)	災害ボランティアとは ①		
9	災害と地域社会(4)	災害ボランティアとは②		
10	地域社会で活動する担い手(1)	住民主体論:地域社会で活動する人々や組織について		
11	地域社会で活動する担い手(2)	地域社会における代表的な組織としての自治会		
12	地域社会で活動する担い手(3)	地域社会で活動するボランティア・アソシエーション		
13	地域社会で活動する担い手(4)	地域社会における人々の個人的なつきあいであるパーソナル・ネットワークについて		
14	地域コミュニティの担い手(5)	ボランティア・NPOの可能性について		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	定期試験	筆記試験		

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「コミュニティ論」 倉沢進 (財) 放送大学教育振興会) 1998 「町内会と地域集団」 倉沢・秋元編 (ミネルヴァ書房) 1990

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	大 西 康 之
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	ボランティア活動と言われるものの本質を考えて見ると社会とのつながりや公共的活動がその中心であることが分かる。また、例えば、阪神淡路大震災を考えてみると単に福祉といえない広い範囲の仕事があることが分かる。ボランティアはこのように従前の福祉に限定されない活動が求められている。 様々な綻びがで、乱れた現代社会はその解決のためこのような様々な社会活動が求められていて、ボランティア・NPO も急速に増加している。社会活動としてのボランティア活動や NPO についての正しい理解と知識を習得させ、地域社会の一員としての自覚とボランティア活動への参加を促すことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 社会活動としてのボランティア・NPO などについての基本的な概念を習得する。 2. 社会の動きを理解し、今後必要と思われる活動や事業を具体的に考えられるようになる。 3. 自分が活動したいと思う分野の NPO 法人の定款を作ってみる。 4. ボランティア活動を実践する。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、平常点を加味し、実際にボランティア活動を実践したかどうかによって評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ボランティア実践論	講師の 40 年のボランティア体験を講義する		
2	社会活動とボランティア (1)	講師が取り組んだ様々な社会活動 つつじヶ丘福祉施設、藤ヶ丘学園 桐生市ボランティア協議会準備会		
3	桐生市ボランティア協議会	30 年の、桐生市ボランティア協議会運営の実際 [宮地由高講師]		
4	桐生市ボランティア協議会とそこからの発展	ボランティアセンターと実際の姿 災害ボランティアネットワークとその背景 阪神淡路大震災 日本海重油回収 新潟三条水害 新潟県中越地震[宮地由高講師]		
5	NPO 実践論	NPO 法人わたらせライフサービス 10 年の NPO 運営の実際 [宮地由高講師]		
6	ボランティア活動の実際	実際のボランティア活動と話し合い 講師が取り組んだ社会活動とボランティア		
7	NPO のマネージメント	NPO の組織 運営、資金調達 NPO のネットワーク[宮地由高講師]		
8	社会活動とボランティア (2)	講師が取り組んだ様々な社会活動 桐生に女性市議を当選させる会、生涯学習桐生市民の会、モデル事業委員会、地区推進委員など 桐生産地乃店、一店一作家 (一工場) 運動		
9	社会活動とボランティア (3)	講師が取り組んだ行政の特別職としての仕事 有隣館運営委員、公民館運営審議会、社会教育委員		
10	日本の社会活動と庶民教育 (1)	ボランティアの先人石田梅巖と石門心学 (岡部栄信と昭和心学)、小谷三志と不二孝 (二宮尊徳)		
11	日本の社会活動と庶民教育 (2)	田沢義鋪と社会教育 (下村湖人) 青年団、理想選挙、修養団		
12	公民館とボランティア活動	寺中作雄、鈴木健次郎 文部 (科学) 省優良公民館表彰から		
13	高崎市のボランティア活動と社会教育	高崎市の公民館などのボランティア活動の実際 [高崎市教育委員会社会教育課植原孝行講師]		
14	社会教育法と日本の民主主義	寺中作雄、鈴木健次郎、井内慶次郎 市民活動、ボランティア、NPO と公民館、社会教育		
15	定期試験	筆記試験及びボランティア活動体験レポート提出		

教 科 書	
参 考 書	「特定非営利活動法人設立等の手引き」(群馬県合同庁舎内販売)

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期集中
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	誕生や死に際して行われる伝統的な儀礼や慣行の研究を通して、日本人の「いのち」に関する民俗的思考を明らかにすることを目標とする。そこで本講義では、誕生・病気・健康・長寿・死をキーワードに医療と民俗の関わりについてさまざまなアプローチを試みる。
学習到達目標	(1) 誕生民俗の過去と現在のあり方を学ぶ。 (2) 病気・健康と民間療法を学ぶ。 (3) 長寿儀礼と死の文化を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目—生命倫理
成績評価方法	出席40%、授業時試験60%

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4 5	(1) 誕生民俗と医療文化	丙午俗信と出産行動(俗信と医療文化) いのちの個別化(産死の身二つ慣行) 双子の民俗(生命選択) 名付けの由来(命名の民俗) いのちの保護(産婆の技術と呪術)		
6 7 8 9 10	(2) 病気・健康と民間療法	民間療法の世界(民間薬と呪術) 健康と癒し(健康飲料・健康ブーム) 急病人搬送の民俗(医療と伝統的習俗)		
11 12 13 14 15	(3) 長寿儀礼と死の文化	長寿銭の民俗(長寿観と伝統文化の創造) 看取りと臨終(介護と家族) 死の判定とタマヨビ(霊魂と俗信) 土葬から火葬へ(死者儀礼と現代社会) 試験		

教科書	「いのちの文化人類学」波平恵美子(新潮社) 適宜、プリントを配布する。
参考書	「岩波講座宗教7巻(生命)」池上良正ほか編(岩波書店)

授 業 科 目 名	法 学	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	「法」というと「難しいもの、面倒なもの、私たちに関係ないもの」といった印象を持っている人が多いのではないだろうか。でも、実は、「法」は身近なものであり、私たちを守ってくれるし、私たちが幸せになるために使えるものでもある。そこでこの科目では、基本的人権・平和・民主主義といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。履修者が政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長すること、あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつけることを目標とする。
関 連 科 目	[他の教養科目で関連の深そうなもの] 経済学・国際関係論・性別の社会科学・家族学・教育学
成 績 評 価 方 法	論述式の筆記試験またはレポートにより評価する。〈自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか〉を、評価の基準とする。なお、授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	序論	法とは何か、憲法とは何か		
2	人権①	人身の自由（死刑制度、冤罪）		
3	人権②	表現の自由（選挙運動の自由、報道の自由）		
4	人権③	信教の自由と政教分離（靖国神社参拝問題）		
5	人権④	教育と人権（義務教育と不登校）		
6	人権⑤	家族と人権（夫婦別姓）		
7	人権⑥	労働と人権（過労死を作り出す企業社会）		
8	人権⑦	平等原則と個人の尊重		
9	民主主義①	民主政治と独裁政治		
10	民主主義②	国民主権と象徴天皇制		
11	平和①	日本の戦争と戦争責任・戦後責任		
12	平和②	原爆投下と日本の敗戦		
13	平和③	憲法9条2項（戦力の不保持）と自衛隊・在日米軍		
14	平和④	戦争をするアメリカ、派兵する日本（改憲論の現在）		
15	定期試験			
★	各回の授業内容と順番は、変更することがある。			

教 科 書	使用しない。
参 考 書	「新版 主権者はきみだ」森英樹（岩波書店 岩波ジュニア新書）

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	武 井 昭
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	今日においては「お金」なしには生きていけない。「お金」を安定して稼ぐには、今日の「経済」の仕組みを正しく認識することが不可欠である。今後急速に進展する「少子・高齢社会」の中でこのことを実現することは容易ではないが、本講義では、「少子・高齢社会」の到来とこれまでの「経済」の関係を可能な限り体系的具体的に捉えることを通じて、フリーター・ニート、年金、医療、介護など今日直面する諸問題の克服の可能性を考査する。
学 習 到 達 目 標	自分なりに理解したことをスタディしそれを文書で表現する能力
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	レポート (400 字詰め原稿用紙 15 枚以上)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ガイダンス	今日の「経済」は「工業経済」がその価値の中心を形成し、その価値づけについては「市場」(マーケット)で行うということが中核をなしているために、「お金」での評価の比重が大きくなる。それにつれて、このこととこれ以外の社会的な事柄との関係において軋轢が生じ、社会経済問題となる。こうした視点から講義を展開する。		
2	経済と社会の関係			
3				
4	工業経済と市場経済の統合			
5	経済発展と技術革新			
6	経済成長と社会保障			
7				
8	高齢化社会のメカニ			
9	ズム			
10	少子・高齢社会の到			
11	来			
12	介護・福祉・健康と			
13	労働 (女性の社会 化・フリーター問題)			
14	看護・リハビリの社			
15	会経済学			

教 科 書	「生活と福祉の社会経済学」武井昭 (高文堂出版社) 2000 年
参 考 書	

授 業 科 目 名	国 際 関 係 論	単 位 認 定 者	藤 本 凡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	国際社会とは、対立の構造を抱えつつ相互に依存し共通する利益の追求を図ろうとする、「力」の交錯した社会である。ここでは、国家のみならず「信念」をもつ個人やその団体も行動主体となりうる。信念は、物事の本質を見極める力を持ち思考を重ねることをへてこそ揺るがないものとなるはずである。本講義では、「階層」をキーワードに、国際社会の構造、その中で機能する法や制度の成り立ち、そしてそれらの変革に関わる動きを、経済的・政治的観点から読み解いていく。国際協力に関心のある学生に対して、巨視的立場から世界の「力関係」を学び、自身の立場を考える機会を提供するものである。
学 習 到 達 目 標	1. 勢力均衡から覇権獲得競争、東西対立、南北対立へという「国際社会の構造変動」について学ぶとともに、主権国家の成立期にさかのぼって「工業化と国家の関係」に注目することで、構造変動の本質を把握する。 2. 国際協力と国際機構の関係、そしてとくに国連の機能とその舞台において繰り広げられる加盟国の政治的・経済的な「力の交錯」状況を把握することで、国際協力の枠組みの理想と現実を理解する。 3. 近代以降の国際舞台の主役、「主権国家」の変貌の可能性を、欧州連合を例に探る。 4. 可変的な国際社会の構造、そこにごめく力関係のなかにあつて、個人はどのような場面・立場で国際社会に参加できるのか、またはできないのか、個人的な意見を持てるようになる。
関 連 科 目	関連し合う教養科目—法学 経済学 この科目が基礎となる専門基礎科目—国際医療協力
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、レポート（1回実施）の点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	社会科学の研究 国際関係論史(1)	①研究とは②情報の収集と取捨選択 I 大戦～1920年代の理想主義的アプローチ 例：国際法・国際機構論		
2	国際関係論史(2)	現実主義的アプローチから新たなアプローチへ 例：①パワー・国益の重視②政治学の科学研究 ③巨視的理論の構築		
3	国際関係と演劇 〈舞台〉国際体系(1)	舞台・役者・演技・ドラマ 西欧国家体系の成立と拡大 ①主権国家 ②主権国家と「工業化」		
4	国際体系(2)	③勢力均衡から覇権国家の登場へ・覇権の推移 ④「極」の対立～東西対立・南北対立		
5	〈演技〉目的実現 のために	①演技力～国力とは②演技の道具～外交交渉・制裁・援助・交流③外交政策の決定過程		
6	〈役者/ドラマ〉 外交政策の特徴(1)	イギリス（覇権国から旧覇権国へ）・アメリカ（外部から覇権国へ）の外交政策		
7	外交政策の特徴(2)	日本（外部から非覇権中心国へ）の外交政策		
8	南北の構造対立	①経済援助の思惑②発展途上国の主体的要求		
9	〈舞台/役者/ドラマ〉 国際社会の組織化	①国際機構はなぜ必要か ②国際機構の中の平等・不平等 ③国家・国際機構・超国家の関係		
10	国際連合①	安全保障の仕組み①憲章上の仕組み②実際の運用		
11	②	経済協力の仕組み①平和と経済協力②発展途上国と国連・国連ファミリー		
12	欧州連合①	①欧州共同体の誕生②「超国家」への試練		
13	②	①経済統合から政治統合へ②欧州連合の拡大		
14	レポート評価と討論	個人はいかなる場面・立場で国際社会に参加できるか		
15	試験	筆記試験		

教 科 書	「新国際関係論」花井等（東洋経済新報社）
参 考 書	「国際政治経済学をめざして」川田侃（お茶の水書房） 「ポスト覇権システムと日本の選択」猪口邦子（筑摩書房） 「国際機構論」最上敏樹（東京大学出版会） ほかに適宜、指示

授 業 科 目 名	性 別 の 社 会 科 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2. 若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える
学 習 到 達 目 標	1. 日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2. 1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる 3. 2のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4. 3のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる
関 連 科 目	【関連する教養科目】 家族学、生活学、法学
成 績 評 価 方 法	講義を踏まえ、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	戦後日本社会と性別 (1)	データに見る「現代日本社会と性別」		
2	戦後日本社会と性別 (2)	データに見る「現代日本社会と性別」(続)		
3	戦後日本社会と性別 (3)	「女性」「男性」をめぐる規範		
4	戦後日本社会と性別 (4)	高度経済成長期における性別分業の形成—分業の3軸、第1の性別分業：有償労働と無償労働		
5	戦後日本社会と性別 (5)	高度経済成長期における性別分業の形成—第1の性別分業：社会的労働と私的労働 (続き)		
6	戦後日本社会と性別 (6)	高度経済成長期における性別分業の形成—第2の性別分業		
7	戦後日本社会と性別 (7)	:産業雇用労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働) 高度経済成長期以降の性別分業—第1・第2, 2つの性別分業の関係		
8	戦後日本社会と性別 (8)	第3の性別分業—男性:政治/女性:政治への非関与。その根としての「家」制度		
9	性別について公正な社会へ (1)	性別秩序はなぜ問題にされるようになったか、性別秩序を越えた社会		
10	性別について公正な社会へ (2)	社会的労働と私的労働のゆくえ、能力と努力と状況対応秩序の社会への途。国・地方自治体、市場、市民そのぞれができること		
11	ケアと性別 (1)	ケアとは、他者のケアを役割にすること、ケアの役割化に伴うリスク		
12	ケアと性別 (2)	愛とケア、ケア観の成熟、ケアの脱役割化		
13	摂食障害と女性	「摂食障害と女性」を結ぶ2系統の社会的次元の説明		
14	男性問題	「摂食障害と女性」をケアと結ぶと		
15		男性規範とそれが生む問題 定期試験		

教 科 書	プリントによる (プリント保存用のファイルを用意すること)
参 考 書	「女性のデータブック 第4版」井上輝子、江原由美子他編 (有斐閣) 2004 [男女共同参画白書 2005年度版] 内閣府 (財務省印刷局) 2005

授 業 科 目 名	環 境 論	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 生活環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 4 循環型社会、持続可能社会への認識
関 連 科 目	栄養学 地域社会学 地域看護学概論
成 績 評 価 方 法	レポート（前期終了時実施予定）、定期試験（後期終了時実施予定）を重視する。 出席状況、平常点を参考とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	【社会保障制度と生活者の健康】 目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 3. 生活環境の保全 A. 地球環境 a) 地球温暖化 b) オゾン層の破壊 c) 酸性雨 B. 水・空気・土壌 a) 水の安全性 b) 大気汚染 c) ダイオキシン C. 食品管理および家庭用品 a) 食品安全確保対策 b) 食品衛生管理制度 c) 家庭用品の安全対策 D. ごみ・廃棄物 a) 一般廃棄物と産業廃棄物 b) 市町村の責任 c) 生活廃水処理 E. 住環境 a) バリアフリー b) シックハウス症候群	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち		
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源		
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷		
5	典型七公害(Ⅰ)	水質汚濁、土壌汚染		
6	典型七公害(Ⅱ)	大気汚染、悪臭		
7	典型七公害(Ⅲ)	騒音、震動、地盤沈下		
8	四大公害	水俣病、イタイタイ病		
9	生活環境問題まとめ	公害対策の歴史、法制度		
10	オゾン層破壊(Ⅰ)	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し		
11	オゾン層破壊(Ⅱ)	対策、ウィーン条約モントリオール議定書		
12	地球温暖化(Ⅰ)	温室効果ガス		
13	地球温暖化(Ⅱ)	気候変動の状況と見通し		
14	地球温暖化(Ⅲ)	対策、気候変動枠組条約京都議定書		
15	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成		
16	生物の多様性など	生物多様性、砂漠化、海洋汚染、熱帯雨林		
17	地球環境問題まとめ	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任		
18	エネルギー問題(Ⅰ)	日本の1次エネルギー現状		
19	エネルギー問題(Ⅱ)	再生可能エネルギー、自然エネルギー		
20	エネルギー問題(Ⅲ)	エネルギー利用効率、コジェネレーション		
21	廃棄物問題(Ⅰ)	一般廃棄物、産業廃棄物		
22	廃棄物問題(Ⅱ)	医療廃棄物、感染性廃棄物、特定管理廃棄物		
23	廃棄物問題(Ⅲ)	廃棄物処理の過程		
24	食品の安全性(Ⅰ)	食料生産の現状、窒素循環		
25	食品の安全性(Ⅱ)	フードマイレージ、検疫薫蒸		
26	食品の安全性(Ⅲ)	ダイオキシン、環境ホルモン		
27	難分解性汚染物質	有機塩素化合物、POPs、生物濃縮		
28	循環型社会	3R、熱回収、適正処分		
29	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり		
30	定期試験	筆記試験		

教 科 書	
参 考 書	「平成17年版環境白書」 環境省編（ぎょうせい）

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Word、PowerPoint 等を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Word、PowerPoint 等を使用して、レポート、研究発表等の種々の文書作成やプレゼンテーションなどが円滑に実行できるようにする。
関 連 科 目	「情報学」(後期)…「情報処理(前期)」「情報学(後期)」を連続して受講することが望ましい。
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネットの基礎的内容を指導する		【疫学・保健統計】 11-A-a) コンピュータとソフトウェア b) ネットワークとインターネット c) データの電子化 d) 個人情報の秘密保持 11-B. データベース 11-C. レコードリンケージ
2	データの電子化、個人情報の秘密保持	データの電子化、個人情報の秘密保持の基礎知識について指導する		
3	Windows と Word 入門	Windows と Word の基礎的事項を指導する		
4	文字入力	Word を使った文字入力を指導する		
5	文書入力、文書の作成	簡単な文書作成を指導する		
6	文書の訂正、修正	文書の訂正・修正等について指導する		
7	文書の編集	文書の編集(削除、挿入など)を指導する		
8	文書と表の結合	文書中に表を挿入することを指導する		
9	データベース、レコードリンケージ	データベース、レコードリンケージについて指導する		
10	ビジュアルな文書の作成	ビジュアル化によって、見やすく分かりやすい文書の作成を指導する		
11	PowerPoint の基礎	PowerPoint の基礎的事項を指導する		
12	プレゼンテーションの基本事項	プレゼンテーションの基本事項・留意事項を指導する		
13	プレゼンテーションの作成	具体的なプレゼンテーションのスライドの作成を指導する		
14	課題発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	課題発表② 試験	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う 試験を実施する		

教 科 書	「30 時間でマスター Word2002」宮詰正幸他 (実教出版) 「30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2000」永井克昇他 (実教出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	情 報 学	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報学の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果を PowerPoint を用いてプレゼンテーションできるようにする。
関 連 科 目	「情報処理」(前期)…「情報処理(前期)」「情報学(後期)」を連続して受講することが望ましい。
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	統計学の基礎①	統計学の歴史について指導する		
2	統計学の基礎②	統計学の基本的事項について指導する		
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する		
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均の求め方について指導する		
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する		
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値の求め方について指導する		
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する		
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する		
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する		
10	データベースの基本事項	種々のデータのデータベース作成について指導する		
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計の方法を指導する		
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の一般的な埋め込みについて指導する		
13	Word への Excel のリンク埋め込み	Word への Excel のリンク埋め込みについて指導する		
14	研究課題の発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	研究課題の発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
16	試験	試験を実施する		

教 科 書	「30 時間でマスター Excel2002」小倉俊悦他 (実教出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	総 合 講 座	単 位 認 定 者	内 藤 和 美 他
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	設定したテーマについて、専門の異なる複数の教員が異なる角度から論じることにより、当該テーマを多角的・多角的に考察することを目的とする。本年度のテーマを「ライフワークと私」とし、学生が役割モデルを見出し、また、自身の人生を考える契機としたい
学 習 到 達 目 標	各自の職業人、社会人としての将来像をより具体的に考えられるようになる
関 連 科 目	【この科目が基盤となる専門基礎科目】看護学入門、リハビリテーション概論
成 績 評 価 方 法	講義を踏まえたグループワークの成果物および個人のレポートに出席点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	オリエンテーション	異なる分野の研究・教育・実践をライフワークとする教員が、自身とライフワークを語るオムニバス形式の講座である。本講座にはコーディネイターを置く。コーディネイターは、担当者間の連絡調整、講義と講義の関連づけ、講義を踏まえた学生のグループワークの運営等講座全般の運営にあたる。		
2	ジェンダー研究	総合講座の趣旨、テーマ、運営方法、期待すること等を説明する。また、基本概念（ライフワーク、役割モデル、縁と機、等）について解説する（コーディネイター 内藤和美）		
3	精神看護学・認知症高齢者の看護学	専門を替え、男女共同参画社会形成関連の政策過程を中心とするジェンダー・スタディーズの研究・教育をライフワークとするようになった者として（内藤和美）		
4	理学療法学	精神看護学、認知症高齢者の看護に関する教育・研究をライフワークとする者として（齋藤和子）		
5	地域保健学	新生児から高齢者、超早期から慢性期という幅広い臨床の実践者としての経験の後、理学療法の基礎と臨床の研究・教育をライフワークにするようになった者として（江口勝彦）		
6	スポーツ科学	地域で生活する精神障害者を支えるシステムづくりを中心に、地域保健の研究・教育・実践をライフワークとする者として（矢島正栄）		
7	まとめ	肥満関連ホルモンレベルに及ぼす運動の効果の研究を中心に、スポーツ科学の研究・教育・実践をライフワークとする者として（近藤照彦）		
		各人が、保健医療専門職および関連分野の先輩である各教員の自身とライフワークの開示を受け止めて自身のこれからを考えるための視点を提示する。それに基づいて各自がまとめに取り組む（コーディネイター 内藤和美）		

教 科 書	使用しない（各教員が用意する）
参 考 書	

授 業 科 目 名	保 健 統 計 基 礎	単 位 認 定 者	石 井 満
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	従来、臨床現場での推定や判断は経験的・感覚的な事柄が基本となっていることが多く科学性が稀薄であり、時には主観的でさえあった。このことを是正することが必要であり、このための大きな手法が統計学に基づく科学的解析であり、この方向性が先進国の基本的傾向である。以上のことに基づき、臨床データの分析方法を理解し、応用することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	臨床データの分析目的とそれに対応する各方法を理解し、的確に応用できるようになること。このために、可能な限り多種類の臨床データを例題として配布するとともに理論補強のプリントを随時大量に配布する。平方根（ルート）の付いている電卓を用意すること。
関 連 科 目	全ての専門科目
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポート、定期試験等を総合的に評価する。（出席重視）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 ～ 5	統計学とは 資料(データ)の整理	統計学の概要と、臨床例を用いてその必要性を述べる。 平均、限られた範囲での平均、分散、標準偏差、度数分布、相関の各意味と応用		
6 ～ 8	正規分布	正規分布の誘導と応用		
9 ～ 10	標本と標本分布	標本と標本抽出。平均 \bar{x} や二項、カイ ² 乗、t、Fの各分布		
11 ～ 15	推定理論	点推定、真の値の（平均値、分散等の）区間推定		
16 ～ 19	検定理論	理論の構造、t検定、F検定		
20 ～ 22	クロス集計とカイ ² 乗検定	クロス集計とその応用、独立性および適合度検定		
23 ～ 25	回帰分析	回帰分析、相関分析、分散分析表、重回帰分析		
26 ～ 29	調査と質的データ	数値で表せないデータ（質的データ）、 数量化Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類		
30	期末試験 (別に、前期中にテストをすることもありうる。)			

教 科 書	「やさしい医療系の統計学」佐藤敏雄、村松宰 著（医歯薬出版）
参 考 書	「データのまとめ方使い方」中元藤茂他（医歯薬出版） 「統計技術とその理論」石井 満（森北出版）、他 講義時に紹介する。

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	単 位 認 定 者	柴 田 雅 祥
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	遺伝子診断、遺伝子治療、オーダーメイド医療など今後の医療分野では、分子生物学をはじめとする生物学に関する知識が必須であり、今後その重要性はますます高まってゆくと考えられる。そのような状況をふまえ、本講義では「細胞」、「遺伝 (分子生物学)」、「生体内化学反応」、「発生」といった観点から、医療分野への応用につながる生命現象の基本を学習する。また、本講義は高校で生物を学んでこなかった者を対象とした講義であり基礎的知識の習得を目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 生命の最小単位である細胞についての理解 2. DNA など遺伝現象の基礎知識の習得、及びそれを応用した遺伝子診断などについて理解 3. 生体内で生じている化学反応についての基礎知識の習得 4. 細胞の多様性を生み出す発生についての理解
関 連 科 目	関連し合う教養科目－生命科学 この科目が基盤となる専門基礎科目－生化学, 生理学, 免疫・感染症学
成 績 評 価 方 法	筆記試験の結果にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	イントロダクション	本講義の目的、進め方、目標等の説明		
2	細胞 (1)	細胞とは、細胞小器官とは		
3	細胞 (2)	細胞膜、核		
4	細胞 (3)	ミトコンドリア、ゴルジ体、小胞体		
5	細胞 (4)	リボゾーム、細胞骨格		
6	遺伝現象 (1)	遺伝子 DNA について、セントラルドグマ		
7	遺伝現象 (2)	DNA の複製		
8	遺伝現象 (3)	転写		
9	遺伝現象 (4)	翻訳		
10	遺伝現象 (5)	遺伝子診断、オーダーメイド医療		
11	生体内化学反応 (1)	タンパク質、酵素		
12	生体内化学反応 (2)	呼吸		
13	発生 (1)	細胞分化、発生		
14	発生 (2)	ガン		
15	試験	筆記試験		

教 科 書	「好きになる分子生物学」萩原清文 (講談社) 上記に加え随時プリントを配布する。
参 考 書	指定なし。

授 業 科 目 名	化 学 基 礎	単 位 認 定 者	吉 國 忠 亜
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義は板書およびパワーポイントを使って教示し、幾度か簡単な示唆実験と合成実験を演示する。
科 目 の 目 的	化学の歴史は古くから基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校で化学を学ばなかった学生に対しても易しく、看護学・理学療法学の学習に必要な化学の基本を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	化学の領域は密接に医学と結びついているので、化学を知ることにより、看護学や理学療養の治療・処置・治験を深く理解できる。高校の化学教科書に記載の一般的知識を土台にして、その分野の真髄を深く追求する。
関 連 科 目	高校の化学教科書が理解できるような一般的な化学全般を科目とするが、更に生化学、放射化学、天然物化学も含めている。
成 績 評 価 方 法	講義毎に行なう小テストと出席点および学期末定期テストを加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	物質の構成	周期表、原子、水素、同位体、放射能	放射線宿酔	放射線
2	化学結合	種類；イオン、配位、共有、金属、水素		
3	物質の量	パーセント濃度、モル、規定度、アボガドロ数、	薬剤濃度	注射液
4	物質の状態変化	三態、化学平衡、分子軌道、同素体		
5	気体の性質	状態方程式、昇華、加熱組成曲線	肺炎禁忌、	
6	溶液の性質	水、溶媒和、組成曲線、酸解離定数、	酸塩基平衡	
7	化学反応と熱	反応次数、活性化熱、ボルン・ハーバー	血液 PH,	呼吸機能、光化学大気汚染
8	酸と塩基の反応	中和反応、PH, 指示薬、緩衝液、		
9	酸化還元反応	酸化数、形式電荷、酸化還元剤、ヘム		
10	非金属元素と周期表	典型元素、ハロゲン、酸素	チアノーゼ	気管支拡張
11	金属元素の性質	構造、反応、伝導度、アルカリ土類、遷移	呼吸気系作用薬、UV 障害	
12	有機化合物の構造	異性体、立体、アミノ酸、核酸、ビタミン	床上安静、貧血、痴呆症 DNA, 欠乏症、	精神障害
13	脂肪族炭化水素	アルカン、エチレン、アセチレン		
14	脂肪族酸化化合物	アルコール、アルデヒド、ケトン、エステル	洗浄、尿症、気管支拡張	
15	芳香族化合物	ベンゼン、複素環、ステロイド	副腎皮質、乳汁	

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	物 理 学 基 礎	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演 示 実 験 ・ 講 義
科 目 の 目 的	看護や理学療法には、熱、温度、力、運動など物理学の知識が必要である。また、最新の医療機器には原子構造や量子論など最先端の物理学の成果を活用しているものが少なくない。 この科目は、高等学校で物理 I、II、理数物理を履修していない学生を想定して、最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象については、数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関 連 科 目	運動学 物理療法学
成 績 評 価 方 法	定期試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する。 中間レポート等により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	力学	・物理量と単位		
2		・つりあい・力・重力		
3		ベクトル		
4		・運動・速度と加速度・重力の加速度 運動方程式 ・エネルギーの保存 運動エネルギーと位置エネルギー		
5	熱力学	・熱エネルギー		
6		(熱と温度・エネルギーの変換) ・原子、分子の運動 (物質の三態・分子の運動と圧力)		
7	波	・いろいろな波		
8		・音と光 (音の伝わり方・音の干渉と共鳴・光の伝わり方 光の回折と干渉)		
9	電磁気学	・電界と磁界		
10		(電荷と電界・電流による磁界)		
11		・電磁誘導 ・電磁波		
12	現代物理学入門	・原子の構造 (電子の軌道とスペクトル)		
13		・量子論		
14		・固体の性質 (半導体) ・粒子と波		
14		・原子核の構造 ・素粒子と宇宙		
15	定期試験	筆記試験		

教 科 書	プリントによる
参 考 書	「基礎からの物理学」原 康夫 (学術図書出版社)

授 業 科 目 名	英 語 基 礎	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	大学での英語学習についていけるよう、今までに学習してきた英語の基本事項の復習。
学 習 到 達 目 標	基本英文法力の強化、正確な発音、英和辞書の活用。
関 連 科 目	【この科目が基盤となる教養科目】—総合英語 英語表現
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、中間試験、前期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明		
2	Unit 1, 2	5 文型と述語動詞、準動詞(不定詞と動名詞)		
3	Unit 3, 4	準動詞(分詞)、名詞		
4	Unit 5, 6	代名詞、形容詞		
5	Unit 7, 8	冠詞、副詞		
6	Unit 9, 10	前置詞		
7	Extra 1 Extra 3	辞書の使い方、語形成		
8	中間試験			
9	Unit 11, 12	助動詞、句動詞		
10	Unit 13, 14	接続詞		
11	Unit 15, Extra 3	比較、パラグラフ		
12	Unit 16 17	時制 1、完了形と未来形		
13	Unit 18, 19	能動態と受動態、時制 2		
14	Unit 20, Extra 4	条件と否定 発音と強勢		
15	Examination			

教 科 書	「Basic College English Seminar 新しくはじめる大学英語演習」竹前 文夫編 (南雲堂) 2006 年
参 考 書	英和辞典 (必携)

授業科目名	解剖学 I	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・見学実習
科目の目的	看護学を学ぶための最も基本的な知識となる人体の構造を学ぶ。各器官系ごとに骨格系、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系に分け、それぞれ関連づけながら学習していく。
学習到達目標	1、人体の基本的な構造を説明できる。 2、看護学を学ぶための基礎知識としての解剖学を習得している。 3、疾患、病態との関係を説明できる。
関連科目	生理学 生化学 疾病の成り立ち
成績評価方法	中間試験と定期試験で評価する。 ※解剖学見学実習に参加することを単位認定の条件とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	解剖学概説	解剖学とは何か、どのようなことを学ぶか。器官とその系統	必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 K) 骨・筋 「人体の構造と機能」 8. 運動系 A. 姿勢 a) 体位と構え B. 骨格 a) 骨の構造と機能 b) 体の支柱 c) 四肢の骨 d) 頭蓋骨と胸郭 C. 骨格筋 a) 骨格筋の構造 b) 筋収縮の機能 c) 抗重力筋 d) 四肢の筋 e) 頸部の筋 f) 表情筋 g) 呼吸筋 h) 骨盤底筋 D. 運動 a) 関節の構造 b) 関節運動の種類 c) 随意運動と不随意運動 d) 脊髄反射 4. 循環系 A. 心臓 a) 心臓と心筋の構造 b) 心臓の機能 c) 刺激伝導系 B. 血管系 a) 肺循環と体循環 b) 動脈系と静脈系 c) 脈拍 d) 血圧 e) 胎児の血液循環 c. リンパ系 a) リンパ管	
2	組織学概説	組織とその分類		
3	骨格系 1	骨格とは何か、骨のかたち、骨の基本構造、骨の発生と成長、関節		
4	骨格系 2	頭部の骨		
5	骨格系 3	脊柱、胸郭		
6	骨格系 4	上肢の骨格、下肢の骨格		
7	筋系 1	筋総論、頭頸部の筋		
8	筋系 2	胸腹部の筋		
9	筋系 3	上肢の筋、下肢の筋		
10	脈管系 1	脈管系総論、心臓		
11	脈管系 2	動脈系		
12	脈管系 3	静脈系、胎生期の循環系		
13	脈管系 4	リンパ系、脾臓、胸腺、血液、血球		
14	消化器系 1	総論、口腔	必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 h) 消化器 10. 栄養摂取の機構 B. 咀嚼 a) 歯・口腔の構造と機能 b) 咀嚼の過程 C. 嚥下 a) 咽頭の構造と機能 b) 食道の構造と機能 c) 嚥下の過程 D. 消化と吸収 a) 胃の構造と機能 b) 十二指腸の構造と機能 c) 空腸・回腸の構造と機能 d) 結腸の構造と機能 e) 肝臓と胆道の構造と機能 f) 膵臓の構造機能	
15	消化器系 2	咽頭、食道、胃		
16	消化器系 3	小腸、大腸		
17	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓		
18	呼吸器系 1	総論、鼻腔、副鼻腔、喉頭	必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 e) 循環器 f) 呼吸器 9. 呼吸の機構 A. 換気と発声 c) 気管・	
19	呼吸器系 2	気管、気管支、肺		
20	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
21 22	生殖器系 1 生殖器系 2	男性生殖器 女性生殖器	肺の構造と機能 d)呼吸運動 e)肺気量 f)声帯と発生 必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 i) 泌尿気 11 排泄の機構 A. 尿の生成 a)腎臓の構造 b)濾過 c)再呼吸 C. 排尿 a)膀胱の構造神経支配 b)尿道の構造と神経支配 D. 排便 a)直腸・肛門の構造と神経支配 必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 1) 性と生殖 12、性と生殖に関する機構 A. 女性の生殖器 a)女性生殖器の構造 B. 男性の生殖器 a)男性生殖器の構造	
23	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	7、液性調節（内分泌系） C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能 a)視床下部 b)下垂体 c)甲状腺 d)上皮小体（副甲状腺） e)膵島 f)中枢神経系を保護する組織 g)副腎髄質 h)消化管ホルモン i)腎臓のホルモン j)性腺ホルモン	
24 25 26 27 28 29 30	神経系 1 神経系 2 神経系 3 神経系 4 神経系 5 感覚器 1 感覚器 2	総論、中枢神経系（脊髄、延髄、橋、小脳、中脳） 中枢神経系（間脳、大脳、脳の血管、脳室、脳脊髄膜） 末梢神経系（脳神経） 末梢神経（脊髄神経、自律神経） 伝導路（反射路、求心性伝導路、遠心性伝導路） 視覚器、平衡聴覚器 皮膚	必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 g) 神経細胞と情報伝達 5、神経性調節 A 神経組織 B 中枢神経の構造と機能 (ア)末梢神経系 6、感覚と認識 A. 視覚 B. 聴覚と平衡覚 C. 嗅覚と味覚 D. 皮膚感覚 人体の構造と機能 目標 1・2 1 生命 E. 人体をおおう皮膚と膜 a)皮膚の構造と機能 b) 漿膜・粘膜	

教科書	「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学第2版」野村巖（医学書院）
参考書	「人体解剖学」藤田恒太郎（南江堂）

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	石 川 春 律 ・ 浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	骨、筋、関節などの運動器、末梢および中枢神経系、感覚器の構造の詳細を機能と関連させつつ局所解剖学的に学習する。
学 習 到 達 目 標	1、上肢、下肢、体幹の運動を筋学、靭帯学、血管学を互いに関連させ、運動器としての統合機能を学び、機能障害との関連を理解する。 2、中枢神経系および感覚器の構造を機能との関連で学び、機能障害との関連を理解する。
関 連 科 目	生理学 疾病の成り立ち 臨床各科
成 績 評 価 方 法	定期試験による。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	上肢 (1)	上肢帯、上腕		
2	上肢 (2)	前腕、手		
3	下肢 (1)	下肢帯、大腿		
4	下肢 (2)	下腿、足、歩行		
5	体幹 (1)	背部、脊椎、固有背筋		
6	体幹 (2)	胸部、呼吸筋		
7	体幹 (3)	腹部、腹筋		
8	頸部	頸部、前頸筋		
9	頭部	頭部、頭蓋、顔面、表情筋		
10	中枢神経系 (1)	脊髓、延髄、橋、小脳		
11	中枢神経系 (2)	中脳、間脳、終脳		
12	中枢神経系 (3)	神経路		
13	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経系		
14	解剖見学			
15	解剖見学			

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学第2版」野村巖 (医学書院)
参 考 書	「人体解剖学」藤田恒太郎 (南江堂)

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、看護に必要な基礎知識の修得する。 また、代表的な疾患の病態生理も適時に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	まず、各臓器の基本的機能と理解する。そして、臓器機能、その変動要因、負担となることなど生理学的観点から疾患を把握できるようにする。
関 連 科 目	解剖学、病理学、成人看護学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポートなどにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生命とは	細胞・組織・器官	a. 細胞の構造 b. 細胞内小器官の構造	
2	体液、血液	体液の恒常性、血液の成分と機能	a. 体液の電解質	
3			b. 酸塩基平衡	
4			c. 血液の成分とはたらき	
5			d. 造血	
5			e. 凝固と線溶	
6	循環	心臓血管系の基本構造と機能、調節	a. 心臓の構造 b. 心臓の機能	
7			c. 血管の構造	
8			d. 動脈系と静脈系	
9			e. 脈拍 f. 血圧 g. リンパの流れ h. 胎児の血液循環	
10	呼吸	呼吸器系基本構造と機能、調整	a. 鼻腔の構造と機能	
11			b. 咽頭・咽頭の構造 c. 器官・肺の構造	
12			d. 呼吸運動 e. 肺機能の測定	
13			f. 声帯と発声 g. 外呼吸と内呼吸 h. ガス分圧 i. 酸素の運搬 j. 二酸化炭素の運搬 k. 呼吸中枢 l. 呼吸に影響を与える因子	
14	消化と吸収(消化管)	消化器系基本構造と機能、調整	a. 咀嚼の過程 c. 口腔	
15			d. 咽頭の構造と機能	
16			e. 食道の構造と機能 f. 胃の構造と機能 g. 十二指腸, 空腸・回腸の構造と機能 h. 結腸、直腸・肛門の構造と機能	
17	消化と吸収(肝、膵、胆)	消化器系基本構造と機能、調整	a. 膵臓の構造と機能	
18			b. 肝臓と胆嚢の構造と機能	
19				
20	泌尿器と生殖器	腎臓の構造と機能、調整 尿生成、蓄尿と排尿	a. 腎臓の構造 b. 濾過	
21			c. 再吸収 d. 分泌 e. 尿量の調節 f. 膀胱と尿路	
22	内分泌	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	a. ホルモンとは	
23			b. ホルモンの作用機序	
24			c. 様々なホルモン	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
25 26 27	神経	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系	a. 神経細胞の生理 b. 神経細胞と情報伝達 c. 中枢神経系を保護する組織 d. 伝達路 k e. 末梢神経	
28 29 30	感覚と運動	感覚の一般的性質、主要な感覚器と伝導路 運動器系とは、骨・関節・筋の機能 試験	a. 感覚器 b. 感覚伝導路 c. 骨の構造と機能 d. 筋の構造と機能	

教科書	「トートラ人体の構造と機能」大野忠雄訳（丸善）
参考書	「カラー人体解剖学」フレディック・H. マティニーニ著（西村書店）

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	澤 田 只 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	パワーポイント／ビデオ、プリントを使用
科 目 の 目 的	看護の対象となる人間の体を構成するミクロとマクロの世界（生命と物質との繋がり）を栄養学とを織り交ぜた総合的立場から、「根拠に基づく看護（EBN）」をめざし、基本的で、かつ臨床看護に役立つ基礎知識を修得する。そして、「人間」の理解を深めることをねらいとする。
学 習 到 達 目 標	生体分子を構成している化学物質にはどのようなものがあるのかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応が理解でき、また、生命維持の機構や病気との関連も理解できるようになることである。
関 連 科 目	栄養学 臨床検査学（検体分析値の理解） 疾病の成り立ち 生理学 生理学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）、小テスト及びレポート（30%）などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	生体分子と細胞	生体の成り立ち／個体、器官、組織、細胞／細胞内小器官の機能／細胞分画法／生体を構成する物質／代謝—生体で起きている化学反応		
2	タンパク質の性質	タンパク質の分類／タンパク質を構成しているアミノ酸はL-α-アミノ酸である／タンパク質を構成しているアミノ酸の種類／アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している／タンパク質の高次構造／タンパク質は変性し、機能を失う／血漿タンパク質		
3				
4			酵素の性質と働き	酵素とは／酵素の特性／酵素の種類／アイソエンザイム／血清酵素の診断への利用
5	生体内における糖質の代謝	糖とは何か／糖の分類／糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である／グルコースとグリコーゲンの合成／血糖の調節／糖尿病		
6				
7	生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質／脂質の代謝／リポタンパク質と脂質代謝異常		
8				
9		* <u>Midterm Exam</u> *		
10	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脱アミノ反応／脱炭酸反応／尿素回路／糖新生／エネルギー代謝／分枝鎖アミノ酸の代謝／含硫アミノ酸の代謝／オキシアミノ酸の代謝／芳香族アミノ酸の代謝／アミノ酸の先天性代謝異常症／主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動		
11				
12				
13	生体内における核酸の役割	核酸の所在／2種類の核酸と構造核酸はコピーされる／タンパク質を作るための核酸／いらなくなった核酸の処分／核酸の仲間／遺伝病の犯人は？		
14		遺伝子操作のもたらす世界		
15		* <u>Final Exam</u> *		

教 科 書	「ナーシング・グラフィカ② 臨床生化学」三井和浩（メディカ出版）
参 考 書	

授業科目名	発達心理学	単位認定者	三國牧子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人間を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解する事を目的とする。
学習到達目標	①各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。
関連科目	心理学 老年心理学 小児看護学概論
成績評価方法	定期試験に日常点を加味する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解	【必修問題】 II 人間の成長と発達 A. 胎児期 a) 形態的発達 B. 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 b) 身体の発育 c) 運動能力の発達 d) 栄養 e) 母子関係 C. 幼児期 a) 身体の発達 b) 運動機能の発達 c) 排泄の自立 d) 言語発達 e) 社会性の発達 D. 学童期 a) 運動能力・体力の特徴 b) 社会性の発達 E. 思春期 a) 二次性徴 b) アイデンティティの確率 F. 成人期 a) 社会的責任と役割 b) 生殖機能の成熟と衰退 G. 老年期 a) 運動能力・体力変化 b) 知覚・感覚の変化 c) 認知能力の変化 d) 心理社会的変化 【精神看護学】 1. 精神看護の基本概念 C. 成長発達モデル a) 乳幼児における発達危機 b) 学童期における発達危機 c) 思春期・青年期における発達危機 d) 壮年期における発達危機 e) 老年期における発達危機	
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について		
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について		
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子どもの発達の特徴と危機の種類とその管理について		
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題、社会的発達について		
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について		
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴。性に関する問題。		
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴、特に自分探しに焦点を当てて考える		
9	若い大人のライフタスクと危機管理	ライフタスクの考え方と性差における社会的役割など		
10	壮年期のライフタスクと危機管理	壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり・仕事との関わりの変化について		
11	高齢期のライフタスクと危機管理	心身の変化、死のとらえ方など		
12	生命の循環とペアレンティング①	世代連鎖・生命の循環とはについて考える。		
13	生命の循環とペアレンティング②	母性論・父性論について		
14	復習	発達心理学を人生の流れを通して再確認する		
15	定期試験	筆記		

教科書	「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」岡堂哲雄編 (金子書房)
参考書	

授 業 科 目 名	疾 病 の 成 り 立 ち	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症（免疫・膠原病）、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。	目標 1 1A病むとはどういうことか、1B疾病の誘因と回復力。	
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。	目標 2 1 異常状態の特徴、A d 先天異常。	
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。	目標 2 1 異常状態の特徴、A b 変性、A c 壊死。	
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。	目標 2 1 異常状態の特徴、B b 代謝異常。	
5	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。	目標 2 1 異常状態の特徴、A d 循環障害。	
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。	目標 2 1 異常状態の特徴、A d 循環障害。	
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。	目標 2 1 異常状態の特徴、A a 炎症。	
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。	目標 2 1 異常状態の特徴、B a 免疫、目標 1 1 B 疾病の誘因と回復力。	
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。	目標 2 2E 免疫および自己免疫疾患患者への看護の視点。	
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。	目標 2 1 異常状態の特徴、A g 腫瘍、A f 過形成。	
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。	目標 2 1 異常状態の特徴、A g 腫瘍。	
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。	目標 2 1 異常状態の特徴、A c 老化。	
13	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。	目標 2 2A 異常状態に対する診断過程と看護、A b 一般的検査と特殊な検査。	
14	その他	必要に応じて上記を補う。		
15	その他	必要に応じて上記を補う。		

教 科 書	
参 考 書	「系統看護学講座 専門基礎 4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)

授 業 科 目 名	免 疫 ・ 感 染 症 学	単 位 認 定 者	伊 豫 部 志 津 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	病原微生物と免疫の基礎を理解し、生体防御と感染症の成立、予防、治療について学習する。
学 習 到 達 目 標	個々の細菌、真菌、ウイルス等の病原性を学ぶと同時に、予防の立場からは消毒法、ワクチン、予防接種を、治療の立場からは化学療法を学習する。一方免疫の基礎にのっとり、病原微生物との係わりあいから感染症が惹き起こされるしくみを知る。近年問題となっている、MRSA、VRE、O157、AIDS、BSE、新型インフルエンザ等の感染症や病院内における日和見感染症についての理解を深める。
関 連 科 目	生物学基礎、疾病の成り立ち、薬理学、臨床検査学、疫学・保健統計
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	微生物学の基礎(1)	微生物の性質、細菌の性質、真菌の性質	【必須問題】 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 1. 生命活動《生理学》 A. 人体の構造と機能 d) 感染防御と免疫反応 3. 主要疾患と看護 B. 感染症 a) インフルエンザ b) 多剤耐性ブドウ球菌感染症 c) 腸管出血性大腸菌 d) ウイルス性肝炎 e) 結核 f) HIV 感染症/AIDS 【人体の構造と機能】 目標 2 : 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 3. 生体の防御機構《生理学》 B. 特異的生体防御反応(免疫系) a) 免疫系の細胞 b) 抗原 c) 液性免疫 d) 細胞性免疫 【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標 2 : 疾病に対する医療と看護 2. 疾病に対する医療と看護《疾病の成り立ち》 D. 健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 a) 微生物の分布と人体 b) 微生物の種類と特徴 c) 病原微生物の感染経路と潜伏期間 d) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性菌 e) 病原微生物に対する	【疫学・保健統計】 目標 : 疫学および統計学の概念と方法を理解し、これを地域診断に用い、地域保健・地域看護に役立てる基礎的な能力を問う。 6. 感染症の疫学 A. 感染の基礎概念 a) 顕性感染と不顕性感染 b) 混合感染 c) 再感染と二次感染 d) 日和見感染 e) 保菌者と接触者 f) 潜伏期 F. おもな感染症の頻度と分布《疫学・保健統計》 a) 新興・再興感染症(HIV 感染症/AIDS, 結核を含む) b) 性感染症 c) 食中毒
2	微生物学の基礎(2)	原虫の性質、ウイルスの性質		
3	感染の機構	感染の成立から発症の機構		
4	感染とその防御(1)	感染に対する生体防御機構(免疫の機構)		
5	感染とその防御(2)	感染源、感染経路		
6	感染とその防御(3)	感染症の予防(消毒、ワクチンと予防接種)		
7	感染とその防御(4)	感染症の診断と治療(化学療法)		
8	感染とその防御(5)	感染症の現状と対策		
9	病原微生物(1)	病原細菌と細菌感染症(グラム陽性菌)		
10	病原微生物(2)	病原細菌と細菌感染症(グラム陰性菌)		
11	病原微生物(3)	病原細菌と細菌感染症(嫌気性菌、結核菌、放線菌)		
12	病原微生物(4)	病原細菌と細菌感染症(リケッチャ、クラミジア)		
13	病原微生物(5)	病原真菌、原虫と真菌、原虫感染症		
14	病原微生物(6)	病原ウイルスとウイルス感染症		
15	定期試験	筆記試験		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			予防処置と感染防御 E. 人体防御機構への看護の視点 a) 人体の感染防御機構と免疫反応 b) アレルギー疾患 c) 自己免疫疾患および類縁疾患 d) 臓器移植 F. 医薬品等による健康被害 a) HIV 感染症/AIDS b) ウイルス性肝炎 c) クロイツフェルト・ヤコブ病 【社会保障制度と生活者の健康】目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 2. 健康指標と予防 B. 感染症とその予防《疫学・保健統計》 a) 感染症の成立要因 b) 感染症の流行現象 c) 感染症予防の基本 d) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症新法> e) 院内感染とその予防 h) HIV 感染症/AIDS と性感染症	

教科書	「系統看護学講座専門基礎分野 微生物学」(医学書院)
参考書	「イラストレイテッド微生物学」(南山堂)、「シンプル微生物学」(南江堂)

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	1 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。		
3 4	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	必修問題Ⅲ-4A h) 麻薬	
5 6	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。 筋弛緩薬。抗パーキンソン薬。		
7 8	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬（付：胃酸分泌抑制薬）。アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。	4A e) 昇圧薬	
9 10	強心薬。抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬（ジギタリス）の投与法。ジギタリスの副作用とその対策。抗狭心症薬。抗不整脈薬。	4A c) 強心薬 4A c) 抗不整脈薬	
11 12	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬。利尿薬の臨床的応用。 降圧薬。抗動脈硬化薬。	4A d) 狭心症治療薬 4A e) 降圧薬 4A g) 糖尿病治療薬	
13 14	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬。駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	4A f) 副腎皮質ステロイド薬 4A b) 抗がん薬 4A a) 抗菌薬	
15 16	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 開発と化学療法。副作用と組み合わせ。		
17 18	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。		
19 20	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬。抗結核薬。		
21 22	皮膚疾患に用いられる薬剤。	皮膚疾患に用いられる薬剤。 造影剤。放射性医薬品。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
23 24	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤. 点眼薬. 輸液	ショックの原因別分類. ショックの対応と薬剤. 点眼薬. 輸液の目的. 輸液剤.		
25 26	毒物および解毒剤 代謝賦活薬. ビタミン剤	中毒の状態. 急性中毒に対する処置. 解毒剤. 排泄と吸着. 代謝賦活薬・ビタミン剤		
27 28	小児・妊婦・老年者 に対する薬物療法. 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法. 妊婦の薬物療法. 老年者の薬物療法. 嗜好品の薬理. 薬物相互作用.	4B a)混合の可否 4B b)禁忌	
29 30	薬剤の安定性: 保存 および混合の問題点. 試験.	薬剤の保存. 薬剤の混合、配合変化 (配合禁忌).		

教科書	
参考書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授 業 科 目 名	看 護 学 入 門	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	保健医療福祉の分野で共に働く者が互いの専門領域を理解しあうことは、より良い医療を提供するうえで望ましい。看護の役割と機能を学び、医療の受け手である人間への関わり方について理解を深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 医療の受け手である人間について理解を深めるとともに、健康と QOL について考察する。 2. 対象と関わる方法論としてのコミュニケーション技術や対象を把握するための観察の必要性について理解する。 3. 基本的な応急手当の方法について理解する。 4. チーム医療の重要性について理解する。 5. 医療職に関わる法的側面および倫理的側面について理解を深める。
関 連 科 目	看護学概論、看護過程論、看護ケア方法論を始めとする看護学全般の基盤となる
成 績 評 価 方 法	出席状況 レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	「看護」とは何か	看護とは、看護の成り立ちと歴史	必修問題 I. 5. 保健師助産師看護師法 A. 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務 b) 看護師に禁止されている業務 c) 守秘義務 d) 業務従事者届 基礎看護学 目標 1: 看護の基本となる概念についての理解を問う。1. 看護の基本となる概念 A. a) 対象 b) 役割 c) 機能 社会保障制度と生活者の健康 目標 4: 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。B. 保健師助産師看護師法 a) 目的 b) 免許 c) 業務 d) 守秘義務	
2	「看護」とは何か	教育制度 (看護と理学、他)	必修問題 I. 5. 保健師助産師看護師法 a) 養成制度 b) 就業状況 基礎看護学 目標 3: 保健・医療・福祉のなかで看護の果たす役割についての理解を問う。1. 看護の役割と機能を支えるしくみ A. 看護活動の場 a) 地域における看護活動 b) 医療施設における看護活動 c) 保健福祉施設における看護活動 C. 保健医療福祉の連携 a) 他職種の役割 b) 他職種との連携 E. 専門職能団体の活動 a) 専門職集団としての役割と機能	
3	「人間」とは何か	マズローの基本的欲求と人間	II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 1. 人間の特性 A. 人間と欲求 a) 基本的欲求 b) 社会的欲求 B. 患者の特性 a) QOL (クオリティ・オブ・ライフ) > b) 患者コース c) 健康に対する意識 d) 疾病に対する意識 e) 疾病・障害の受容過程	
4	「健康」とは何か	WHO の定義、「病気」とは、「健康」とは		
5	「QOL」とは何か	生命の質、生活の質について考える		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	コミュニケーション コミュニケーション 観察について 観察について 応急手当法 応急手当法 チーム医療について チーム医療について 法律について 倫理について	コミュニケーションとは コミュニケーション技術について 何を観察するか どのように観察するか 基本的な応急手当について1 基本的な応急手当について2 チーム医療と自分の役割1 チーム医療と自分の役割2 看護職と理学療法士に関わる法律について 医療職に求められる倫理とは	基礎看護学 目標1:看護の基本となる概念についての理解を問う。1. 看護の基本となる概念 B. 看護の対象としての人間 a)人間のとらえ方 b)人間と環境 C. 人間にとっての健康 a)健康のとらえ方 b)健康に影響を与えるもの D. 生活と健康 a)せいかつのリズムと健康のかかわり b)生活習慣と健康のかかわり c)生活の要素と健康のかかわり (食、排泄、清潔、衣、活動・運動、休息睡眠、性、学習・遊び、仕事、社会活動) d)QOL<クオリティ・オブ・ライフ> 必修問題 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。1. 基本技術 A. コミュニケーション a) 言語的コミュニケーション b) 非言語的コミュニケーション 4. 診療に伴う看護技術 H. 救急救命処置 a) 気道の確保 b) 人工呼吸 c) 心マッサージ d) 止血 e) 体温の保持 必修問題 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 4. おもな看護活動展開の場と看護の機能 A. 医療施設 a) 病院 b) 診療所 c) 助産所 d) 老人保健施設 D. 関連職種との連携 a) 関連する職種 b) チーム医療 c) 看護の役割 社会保障制度と生活者の健康 目標4:人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。C. 看護職と関連法規 a) 労働基準法 b) 労働条件の原則 c) 育児休業・介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 d) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 e) 医師法 f) 薬剤師法 g) 診療放射線技師法 h) 臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律 i) 理学療法士及び作業療法士法 必修問題 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームド・コンセント e) ノーマライゼーション 基礎看護学目標1:看護の基本となる概念について問う。1. 看護の基本となる概念 E. 看護倫理 a) 患者の権利擁護 b) 患者のプライバシー保護 c) 看護師の倫理規定 d) 職業倫理	
教科書	特に指定しない。			
参考書	「看護 ベッドサイドの光景」増田れい子 (岩波新書)、「看護婦の現場から」向井承子 (講談社現代新書)「日本の医療を問いなおすー医師からの提言」鈴木厚 (ちくま書房)、その他随時紹介する。			

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療スタッフとして必要な臨床検査医学の基礎的知識を学習する。
学 習 到 達 目 標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病を診断及び治療を行うための臨床検査の概略を把握する。
関 連 科 目	解剖学（人体構造） 生理学（人体機能） を含む各臨床科目
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	臨床検査とその役割	臨床検査の重要性、病気の診断及び治療における臨床データの寄与を知る	将来の医療スタッフに必要な「人体の構造と機能（解剖学、生理学）」及び「健康障害と回復」に関する基礎知識の学習を含む	将来の医療スタッフに必要な「人体の構造と機能（解剖学、生理学）」及び「健康障害と回復」に関する基礎知識の学習を含む
2	臨床検査の流れと医療スタッフの役割	医療チームの役割について		
3	系統別臨床検査の進め方	医療の現場ではどのように検査を進めているかを学ぶ		
4	一般検査	尿、便、体液の検査の理解		
5	血液検査	血沈（赤沈）、血球、出血、凝固		
6	化学検査（1）	血清タンパク、酵素、糖代謝、脂質代謝		
7	化学検査（2）	胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等		
8	免疫・血清検査（1）	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫		
9	免疫・血清検査（2）	免疫グロブリン、アレルギー、腫瘍マーカー等		
10	内分泌検査（1）	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン		
11	内分泌検査（2）	副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン等		
12	微生物検査（1）	検体の取り扱い方、主な微生物の特徴と病気との関連性		
13	微生物検査（2）	同上		
14	病理検査	細胞診、病理組織検査		
15	生理機能検査	循環器、呼吸器、神経機能、超音波サーモグラフィー等		

教 科 書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」大久保昭行 編（医学書院）
参 考 書	

授 業 科 目 名	病 態 栄 養 学	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	臨床栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、臨床栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄を理解し、これらの疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から臨床栄養学を中心に、代表的疾患、病態を例に挙げて(糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など)説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。
学 習 到 達 目 標	1) 基礎医学(解剖学、生理学)に基づいて栄養学の基礎を復習する。 2) 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。 3) 自分に関わりのある疾病、病態について、病態や症状と栄養学的関連性について自学できるようにする。
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学、栄養学
成 績 評 価 方 法	講義をした事項についての理解度を高めるためにレポートを求め、さらに自分のテーマを定めて自学し、同様にレポートを求める。 定期試験50% 授業内レポート10% 授業外レポート30% 出席10%

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	臨床栄養学とは	1) 現代は栄養過剰、飽食の時代へと変遷しており、同時に疾病構造の変化はめざましいものがある。このため臨床栄養学も変遷している。このようななか、どのような栄養学が必要なのかについて学ぶ 2) 栄養学の基礎の復習 外部情報と内部情報、これを統合する食欲中枢について学ぶ。		
2	栄養の評価について	1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学の基礎の復習		
3	疾病と栄養(1)	病態生理(糖質代謝異常、脂質代謝異常、アミノ酸代謝異常、電解質代謝異常、ビタミン異常)について復習する。 1) 肥満とやせ、摂食障害について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。		
4	疾病と栄養(2)	2) 栄養学の基礎の復習 人体の構成成分と栄養素との関連 糖尿病と栄養学		
5	疾病と栄養(3)	近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。 動脈硬化と高脂血症		
6	疾病と栄養(4)	動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。 高血圧、循環器疾患		
7	疾病と栄養(5)	高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。 骨粗しょう症、ミネラル摂取異常		
8	疾病と栄養(6)	老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
9	疾病と栄養(7)	消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。		
10	疾病と栄養(8)	消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。		
11	疾病と栄養(9)	腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。		
12	疾病と栄養(10)	がんと栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。		
13	疾病と栄養(11)	血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。		
14	疾病と栄養(12)	小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。		
15	まとめ	栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。 自学レポートの発表		

教科書	「臨床栄養学」(医歯薬出版) 「食品交換表」(糖尿病学会)
参考書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂)

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	勝 俣 瑛 史
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な人間観の形成と対応力について検討する。
学 習 到 達 目 標	(1) 保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し, (2) 適切な支援のための基礎的な知識と実践力を習得すること。
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	試験成績, 授業態度, 出席状況を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	I 臨床心理学とは	1. 心理学とは		
2		2. 臨床心理学の定義 3. 問題行動の意味 4. 医療領域における臨床心理学的視点		
3	II 心理アセスメント (査定)	1. 問題行動の心理アセスメント		
4		2. 行動観察による心理アセスメント 3. 面接法による心理アセスメント		
5		4. 心理検査によるアセスメント(1) 質問紙形式の心理検査 5. 心理検査によるアセスメント(2) 作業形式および投影法による心理検査		
6	III 心理療法の理論と 実際	0. 心理療法とは		
7		1. 医療領域に生かせる心理療法		
8		2. カウンセリング		
9		3. 行動療法・認知行動療法		
10		4. 自律訓練法・動作法 (臨床動作法)		
11		5. 芸術療法と描画法		
12		6. 回想法		
13		7. 記憶リハビリテーション(1)		
14		8. 記憶リハビリテーション(2)		
15	まとめ 試験			

教 科 書	
参 考 書	「コンピタンス心理学」勝俣瑛史 (培風館) 「臨床心理学入門事典—現代のエスプリ別冊特集号」岡堂哲雄編 (至文堂)

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
学 習 到 達 目 標	①生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 ②公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 ③公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関 連 科 目	生命倫理 環境論 健康管理論 疫学、保健統計 地域社会学 情報学 免疫、感染症学
成 績 評 価 方 法	定期試験 出席状況 研究発表 等

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生 環境と公衆衛生 同上 食と公衆衛生 国民の健康と保健統計 同上 疫病の疫学と予防 同上 同上 生活習慣病対策 公衆衛生活動 例 同上 保健・医療行政 課題研究発表	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合 人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準 食中毒の発生状況、食中毒の種類 健康指標、20世紀100年の変化 年齢調整死亡率の意義 疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、スクリーニング 感染症の疫学、新感染症予防法 結核対策、HIV 対策 がんの予防、その他生活習慣病予防 精神保健対策、介護保険制度 母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費 指定課題による研究発表	総人口、年齢別人口、労働人口、将来推計人口、世帯数 出生の動向、死亡の動向、死因の概要 平均余命、有訴者の状況、受療率、入院期間 公衆衛生の領域、活動の特徴、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの展開、世界保健機関(WHO)加盟国の役割、生態学的環境、物理化学的環境、社会的環境、身体的・精神・心理的影響、健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス 国勢調査、人口動態、出生、死亡・死因、死産、周産期死亡、乳児死亡、平均余命、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率 感染症の成立要因、感染症の流行現象、感染症予防の基本、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症新法)、院内感染とその予防、予防接種法、結核予防法、HIV感染症/AIDSと性感染症	疫学の目的・対象・方法、疫学と地域保健・地域看護、記述疫学と分析疫学、人・場所・時間、二大要因説と三大要因説、危険因子と多要因原因説、相関関係と因果関係、疫学的因果推論、国際疾病分類、診断基準、疫学的因果推論 性比、累積罹患割合、累積死亡割合、致命割合、罹患率、死亡率 リスク比、レイト比、寄与危険、オッズ比 疫学調査における倫理、生態学的調査、横断的調査、症例対照調査、既往コホート調査、コホート内症例対照調査、前向きコホート調査、無作為割付臨床試験 妥当性と精度、選択の偏り、情報の偏り、交絡 無作為化(割付)、制限、マッチング、層化、標準化 感受性・特異度、信頼性と妥当性、陽性反応的中度 スクリーニングを行う要件 顕性感染と不顕性感染、混合感染、再感染と二次感染、日和見感染、保菌者と接触者、潜伏期 人・場所・時間と流行、長期間での流行の変化 病原体と病原体対策、感染経路と感染経路対策、感受性と感受性対策 マスターテーブル 感染症の発生動向調査 新興・再興感染症、性感染症、食中毒 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、結核予防法、予防接種法、検疫法、食品衛生法、学校保健法 頻度と分布、危険因子、一次予防と二次予防、三次予防

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
				<p>母集団と標本、無作為抽出、正規分布、検定・推定に用いる分布、平均値と他の代表値、四分位数とパーセンタイル、データの範囲、分散と標準偏差、相関と回帰、クロス集計と関連の指標、度数分布、ヒストグラムと他のグラフ表示、相関図(散布図)と回帰直線、点推定と区間推定、帰無仮説と統計学的有意性、母割合に関する推定と検定、母平均値に関する推定と検定、母相関係数に関する推定と検定</p> <p>おもな健康指標、人口ピラミッド、年少人口指数、老年人口指数、老年化指数、死亡と生命表、出生と人口再生産、婚姻と離婚</p> <p>国勢調査、人口動態調査、国民生活基礎統計、患者調査、医療施設統計、学校保健統計、感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査</p> <p>コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット、データの電子化、個人情報の秘密保持、データベース、レコードリンケージ</p>

教科書	
参考書	

授業科目名	疫学・保健統計	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。
学習到達目標	①疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 ②感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。 ③健康問題の標準的な解析方法論である保健統計技法を理解する。
関連科目	生命倫理 情報処理、情報学 公衆衛生学 地域社会学 免疫、感染症学 環境論 健康管理論
成績評価方法	定期試験 出席状況

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	疫学概念	疫学の目的、対象、方法	総人口、年齢別人口、労働人口、将来推計人口、世帯数 出生の動向、死亡の動向、死因の概要 平均余命、有訴者の状況、受療率、入院期間 食事・栄養、睡眠、運動、飲酒、喫煙 健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス 国勢調査、人口静態、出生、死亡・死因、死産、周産期死亡、乳児死亡、平均余命、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率 感染症の成立要因、感染症の流行現象、感染症予防の基本、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症新法)、院内感染とその予防、予防接種法、結核予防法、HIV 感染症/AIDS と性感染症	疫学の目的・対象・方法、疫学と地域保健・地域看護、記述疫学と分析疫学、人・場所・時間、二大要因説と三大要因説、危険因子と多要因原因説、相関関係と因果関係、疫学的因果推論、国際疾病分類、診断基準、疫学的因果推論 性比、累積罹患割合、累積死亡割合、致命割合、罹患率、死亡率 リスク比、レイト比、寄与危険、オッズ比 疫学調査における倫理、生態学的調査、横断的調査、症例対照調査、既往コホート調査、コホート内症例対照調査、前向きコホート調査、無作為割付臨床試験 妥当性と精度、選択の偏り、情報の偏り、交絡 無作為化(割付)、制限、マッチング、層化、標準化 感受性と特異度、信頼性と妥当性、陽性反応的中度 スクリーニングを行う要件 顕性感染と不顕性感染、混合感染、再感染と二次感染、日和見感染、保菌者と接触者、潜伏期 人・場所・時間と流行、長期間での流行の変化 病原体と病原体対策、感染経路と感染経路対策、感受性と感受性対策 マスターテーブル 感染症の発生动向調査 新興・再興感染症、性感染症、食中毒 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、結核予防法、予防接種法、検疫法、食品衛生法、学校保健法
2	疫学の歴史	疫学の沿革、歴史的考察		
3	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学		
4	人間集団の健康現象	記述疫学と分析疫学、5WBridge		
5	頻度と曝露	疾病頻度の指標、曝露効果の指標、相対危険、寄与危険		
6	疫学調査法	前向き調査と後向き調査		
7	同上	バイアスと交絡		
8	同上	疫学的因果推論 疫学の倫理		
9	スクリーニング	感受度特異度、陽性反応的中率		
10	感染症疫学	感染の基礎概念、流行の概念、三大要因と予防の原則		
11	同上	わが国の感染症対策沿革、衛生行政への展開		
12	同上	世界の状況、新興再興感染症		
13	同上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒		
14	同上	防疫活動要領、予防接種		
15	同上	新感染症予防法、I 類感染症		
16	同上	結核の状況		
17	同上	HIV の状況、STD の状況		
18	非感染症の疫学	悪性新生物の疫学		
19	同上	その他の生活習慣病の疫学		
20	同上	環境保健		
21	同上	環境汚染による健康被害の疫学		
22	保健統計学の基礎	母集団と標本調査		
23	同上	平均値、代表値、分散、標準偏差		
24	同上	検定、推定、正規分布		
25	同上	関係の指標、相関係数、母平均値の差の検定		
26	人口統計と保健統計	健康指標		
27	同上	人口動態統計、人口静態統計、生命表		
28	同上	情報処理のための基礎知識		
29	同上	保健統計 演習		
30	同上	同 上		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
				<p>頻度と分布、危険因子、一次予防と二次予防、三次予防</p> <p>母集団と標本、無作為抽出、正規分布、検定・推定に用いる分布、平均値と他の代表値、四分位数とパーセンタイル、データの範囲、分散と標準偏差、相関と回帰、クロス集計と関連の指標、度数分布、ヒストグラムと他のグラフ表示、相関図（散布図）と回帰直線、点推定と区間推定、帰無仮説と統計学的有意性、母割合に関する推定と検定、母平均値に関する推定と検定、母相関係数に関する推定と検定</p> <p>おもな健康指標、人口ピラミッド、年少人口指数、老年人口指数、老年化指数、死亡と生命表、出生と人口再生産、婚姻と離婚</p> <p>国勢調査、人口動態調査、国民生活基礎統計、患者調査、医療施設統計、学校保健統計、感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査</p> <p>コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット、データの電子化、個人情報の秘密保持、データベース、レコードリンケージ</p>

教科書	
参考書	

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1		リハビリテーションの定義、理念		
2		リハビリテーションの歴史		
3		障害論（定義、障害の三つのレベル）		
4		障害者の実態		
5		障害の心理		
6		リハビリテーションの流れ		
7		リハビリテーションのチームと職種		
8		医学的リハビリテーション（予防的、回復的、維持的		
9		リハビリテーションの定義、対象、方法）		
10		教育的リハビリテーション		
11		職業的リハビリテーション		
12		社会的リハビリテーション		
13		地域リハビリテーション		
14		寝たきり老人のリハビリテーション		
15		期末テスト		

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授 業 科 目 名	社会福祉・社会保障制度論	単 位 認 定 者	福 島 富 和
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	保健師業務を志すものにとって、関連する法規・制度の理解は必須である。地方分権等変化する社会情勢の中で人間の生命、健康問題、生活問題を根底で支える役割の理解
学 習 到 達 目 標	1 福祉行財政の仕組みを理解する。 2 社会情勢の変化に伴う制度等の変遷を理解する。 3 保健師として理解した法律・制度・福祉援助技術を使いこなす。
関 連 科 目	地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 地域看護活動論Ⅱ 生活学 家族学 法学 地域社会学 経済学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	社会保障・社会福祉の体系 社会保障・社会福祉の発展過程	1 社会保障・社会福祉とは何か 2 社会保障・社会福祉の改革 3 改革される社会保障・社会福祉の仕組み 1 社会保障の前史 2 社会保険の発達 3 社会保障の発展と確立 4 戦後のわが国の社会保障制度の展開	社会事業としての国の政策、富国強兵と国民体力増強運動、戦後の公衆衛生政策の基盤形成、国民健康づくり対策の展開、生活習慣病予防の概念、老人医療と高齢者保健福祉戦略、市町村の役割重視と福祉政策、精神障害者の社会復帰、新しい感染症対策、医療法改正、地方分権と地域保健法、障害者基本法、訪問看護制度と介護保険法、健康増進法と健康日本 21	社会事業としての国の政策、富国強兵と国民体力増強運動、戦後の公衆衛生政策の基盤形成、国民健康づくり対策の展開、生活習慣病予防の概念、老人医療と高齢者保健福祉戦略、市町村の役割重視と福祉政策、精神障害者の社会復帰、新しい感染症対策、医療法改正、地方分権と地域保健法、障害者基本法、訪問看護制度と介護保険法、健康増進法と健康日本 21
2	社会保障・社会福祉の財政	1 社会保障・社会福祉の財政 2 日本における社会保障・社会福祉の財政 3 社会保障・社会福祉関係費の推移 4 社会保障・社会福祉関係費の負担	一般衛生行政、社会保険、産業保健行政、環境保全行政、学校保健行政、社会福祉の基本的概要、地域福祉計画とコミュニティ、地域福祉権利擁護、成年後見制度、法体系、市町村の役割、居宅サービス事業者、居宅介護支援事業者とケアマネジメント	一般衛生行政、社会保険、産業保健行政、環境保全行政、学校保健行政、社会福祉の基本的概要、地域福祉計画とコミュニティ、地域福祉権利擁護、成年後見制度、法体系、市町村の役割、居宅サービス事業者、居宅介護支援事業者とケアマネジメント
3	所得保障一時年金制度	1 年金制度とその発展過程 2 年金制度の改革 3 年金制度の仕組みと給付		
4	介護保障	1 介護保険制定の経過とねらい 2 介護保険制度の仕組み 3 介護保険サービス事業の種類 4 介護保障の課題		
5	貧困と社会福祉	1 生活保護の制度 2 今日の低所得者層と生活保護 3 生活福祉資金貸付制度		
6	児童と母子の社会福祉	1 児童の権利保障 2 児童福祉の歴史と制度 3 母子及び寡婦の福祉		
7 8 9	障害者（児）の社会福祉	1 障害者福祉の理念と実態 2 身体障害者（児）の福祉対策 3 精神障害者の福祉 4 知的障害者の福祉 5 雇用保障と共同作業所の実施		
10 11	高齢者の社会福祉	1 高齢者福祉の理念と変遷 2 高齢者世帯の生活実態 3 老人福祉施設		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	社会福祉施設の現状と課題	4 在宅福祉対策		
13		1 社会福祉施設とその歴史 2 社会福祉施設の種類と推移 3 社会福祉施設の運営基盤 4 社会福祉施設の最低基準 5 社会福祉施設の社会化 6 社会福祉施設における処遇		
14	地域福祉とコミュニティ・ケア			
15	試験			
		1 地域福祉とコミュニティ・ケアの理解 2 社会福祉協議会 3 民生委員の福祉活動 4 在宅福祉の「供給システム」		

教科書	「第3版 公衆衛生看護学体系9 保健福祉行政論」平山朝子 宮地文子編集（日本看護協会出版会）
参考書	「新版 保健師業務要覧」（日本看護協会出版会）

授業科目名	地域保健行政	単位認定者	大野 絢子
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	保健師の活動は、担当する地域の健康政策や施策の立案、健康問題解決のための具体的活動が求められる。活動は、各方面の関係者との調整、協力により進められる。これらの活動の基礎となる法律、制度、政策についての理解を深めることを目的とする。
学習到達目標	保健医療の行財政の基本的な知識を理解させ、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や、保健医療のサービスの調整及び評価を及ぼすための基本的な能力を養う。また、地方公共団体行政の保健医療計画及びサービス実施計画に必要な知識を習得させる。
関連科目	1 社会福祉・社会保障制度論 2 保健師教育科目のうち、公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・地域サービス論、地域看護活動論Ⅱ
成績評価方法	定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	保健医療行財政	1 保健医療行政		中項目 保健医療の行政 A
2	同上	2 保健医療の財政		
3	保健医療行政の変遷	1 公衆衛生政策の基盤形成		中項目 公衆衛生政策 A の基盤形成
4	同上	2 昭和 20 年～ 40 年代の課題と政策 3 昭和 50 年代から現在までの政策		大項目 2 中項目 B 新たな課題と政策の発展
5	保健医療に関する制度	1 地域保健の制度 2 地域保健法		大項目 2 中項目 C 政策の充実と転換
6	同上	1 母子保健分野に関連する法律と制度		
7	同上	1 成人の高齢者保健分野に関連する法律と制度		
8	同上	1 感染症に関連する法律と制度		大項目 3 中項目 D 医療提供体制
9	同上	1 精神保健分野に関連する法律と制度 2 医療提供体制		
10	介護保険制度	1 介護保険法の体系 2 介護保険制度と地域保健の役割		大項目 2 中項目 C 政策の充実と転換
11	保健医療行政の計画と評価	1 地方自治体の保健医療計画		大項目 4 中項目 A B C A 地方公共団体の保健医療計画
12	同上	2 地方自治体の計画策定・推進・評価 3 行政における保健師活動		B 地方自治体の計画策定 C 計画の推進と管理・評価
13	保健師業務の基盤となる法律	1 保健師、助産師、看護師法		
14	同上	2 主な保健行政に関する法律		
15	テスト			

教科書	1 「最新保健学講座 6 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) 2 「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 3 「基本医療六法 平成 18 年度版」(中央法規) 4 「福祉小六法 2006」(中央法規)
参考書	1 「標準保健師講座」(保健医療福祉行政論 医学書院) 2 「公衆衛生看護学大系の保健福祉行政論」(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	栄 養 学 (含 食 品 学)	単 位 認 定 者	志 田 俊 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心とするが、その進度に応じ課題を提示し自己学習 調査などを実施し理論としての「学」だけでなく実践活動を伴った学習が可能であるような指導方法を実施する。
科 目 の 目 的	「食は命の基本」とあるという哲学のもとに食品すなわち栄養素と人体の関連性を充分理解させ健康状態から逸脱している人々に食生活の指導をいかに行うかということを考えるキッカケをつくり、更に将来NSTのメンバーとして必要な基本知識を養成する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	① 講義内容の理解度を判定するための筆頭試験 ② 提出物 100%
関 連 科 目	① 解剖学 ②生化学 ③生理学 ④病理学
成 績 評 価 方 法	定期試験、提示された課題についてのレポート 出席状況を総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	栄養学の目的 1	・ 人は何のために食べるか ・ 食べ方には段階がある	人体の構造と機能 10. 栄養摂取の機構	
2	栄養素の科学	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割	E. 代謝	
3		・ 炭水化物について	a) 栄養所要量 b) 基礎代謝 c) 炭水化物の代謝	
4		・ 単糖類 二糖類 多糖類の構造と解糖作用について	d) 脂肪の代謝	
5		・ 脂質の種類と体内での主たる役割 単純脂質 複合脂質 ステロール化合物 脂肪酸の種類と構造	e) タンパク質の代謝 f) 核酸の代謝	
6		・ 蛋白質の種類と体内での主たる役割 単純蛋白質 複合蛋白質 アミノ酸の種類と性質	g) ビタミン・ミネラル	
7		・ ビタミンの種類と体内での主たる役割 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミンの分類と性質 生理作用について課題提出		
8		・ 課題について自己学習のじかんを取る (食品成分表を資料としノートに整理し試験範囲に入れる)		
9		・ ミネラルの種類と体内での主たる役割 体液バランスの講義の後 自己学習		
10		・ ミネラルについての自己学習時間とする		
11		・ 栄養素と食品群について 食品群の考え方 三群について 四群について 六群について		
12		・ 栄養摂取の実践 ・ 献立作成 ・ 献立作成の条件 ・ 資料の準備		
13		・ 献立作成用紙配布 各自献立を考える ・ 献立作成 栄養計算		
14		・ 栄養計算調整		
15		・ 栄養計算調整 ・ 献立作成の総括・反省		

教 科 書	「五訂増補 食品成分表」(女子栄養大学出版部 出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	健 康 管 理 論	単 位 認 定 者	武 田 淳 史
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりをみせており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。
学 習 到 達 目 標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを学ぶ。
関 連 科 目	社会学、公衆衛生、内科学、心理学、スポーツ科学
成 績 評 価 方 法	試験と課題レポートの総合評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康とは	健康、栄養、食事について		
2	健康保険制度	医療制度と健康保険		
3	喫煙、肥満	日常生活に求められる健康とは		
4	スポーツと健康	外傷とリハビリテーション		
5	大学生と性	エイズ、予防、性感染症		
6	身体健康(1)	突然死		
7	身体健康(2)	腹痛、食中毒		
8	身体健康(3)	膠原病、腎疾患(人工透析)		
9	身体健康(4)	生活習慣病		
10	精神健康(1)	メンタルヘルス、ノイローゼ		
11	精神健康(2)	大学生の不登校とスチューデントアパシー		
12	精神障害	分裂病、鬱病		
13	精神健康増進	自閉症、思春期妄想症		
14	まとめ(1)	健康関連ビデオ鑑賞とまとめ		
15	まとめ(2)	健康関連ビデオ鑑賞とまとめ		

教 科 書	「学生と健康」国立大学等保健管理施設協議会 編(南江堂)
参 考 書	

授 業 科 目 名	歯 科 保 健	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	口腔は簡単に観察することのできる内蔵であり、全身の状態を反映することが多い、ということを看護学生に認識させ、患者の口腔を観察する習慣を身につけ、正しい口腔ケアを行うことができるようにする。
学 習 到 達 目 標	解剖生理学的な口腔の特性、臨床的な事項を習得する。また、母子歯科保健、学校歯科保健、地域歯科保健、老人歯科保健の現場で活躍できる知識を習得する。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験で評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	歯	歯に関する基礎知識		
2	歯周組織	歯周組織に関する基礎知識		
3	歯科疾患 1	う蝕について		
4	歯科疾患 2	う蝕の治療について		
5	歯科疾患 3	歯周病について		
6	歯科疾患 4	歯周病の治療について		
7	歯科疾患 5	歯列、咬合について		
8	歯科疾患 6	口腔粘膜疾患		
9	歯科疾患 7	唾液腺疾患		
10	歯科疾患 8	口腔ガン		
11	歯科保健論 1	母子歯科保健		
12	歯科保健論 2	学校歯科保健		
13	歯科保健論 3	地域歯科保健		
14	歯科保健論 4	老人歯科保健		
15	試験			

教 科 書	「系統看護学講座専門分野 19 成人看護学 15 歯・口腔疾患患者の看護第 10 版」(医学書院)
参 考 書	

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	勝 俣 映 史
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるいサービスに必要な人間観の形成と対応力について検討する。
学 習 到 達 目 標	(1) 保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し, (2) 適切な支援のための基礎的・応用的な知識と実践力を習得すること
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	試験成績, 授業態度, 出席状況を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	I. カウンセリングの理論	保健医療領域における看護師および理学療法士の役割とカウンセリング: コンピタンス心理学の視点から		
2		カウンセリングの定義		
3		カウンセリングの歴史 (1)		
4		カウンセリングの歴史 (2)		
5	II. マイクロカウンセリングの技法	マイクロカウンセリングの技法 (1)		
6		マイクロカウンセリングの技法 (2)		
7		カウンセリングの基礎的技法練習 (1)		
8		カウンセリングの基礎的技法練習 (2)		
9	III. 保健医療に生	保健医療領域におけるカウンセリング		
10	かすカウンセリング	保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (1)		
11	技法練習	保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (2)		
12		保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (3)		
13	IV. 高齢者介護にお	高齢者の心理と介護: コンピタンス心理学の視点から		
14	けるカウンセリング	高齢者の介護に生かすカウンセリング技法		
15	マインド	試験		

教 科 書	「看護に生かすカウンセリング ―その理論と技法―」 鶴田一郎 (ブレーン出版) 2005.
参 考 書	「コンピタンス心理学」 勝俣映史 (培風館) 2005. 「臨床心理学入門事典」 岡堂哲雄 編 (至文堂) 2005.

授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	福祉制度が存する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関 連 科 目	地域社会学 社会福祉・社会保障制度論
成 績 評 価 方 法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	福祉の捉え方	福祉とは何か		
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について		
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について		
4	地域福祉の内容と展開			
5	サービスの実際Ⅰ	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する		
6	サービスの実際Ⅱ			
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて		
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。		
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。		
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方		
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」		
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。		
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。		
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的		
15	試験			

教 科 書	「新・社会福祉概論―変革期の福祉を見つめて」 千葉茂明 宮田伸朗著 ((株)みらい)
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力	単 位 認 定 者	成 瀬 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、グループワークとその発表形式 夏休みの課題学習：国連大学、JICA、国際協力プラザなど見学、国際保健NGO活動参加など
科 目 の 目 的	国際協力の目的や意義を理解し、保健医療協力の分野で活動できる人材の育成を目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 2. 保健医療協力の必要性とその特徴が理解できる 3. 開発途上国における保健医療の問題が理解できる 4. 保健医療協力の現場で活動するために必要な資質が理解できる
関 連 科 目	関連する教養科目—国際関係論、医療英語・外書講読（国際医療協力英語）、 関連する専門基礎科目—公衆衛生学、疫学・保健統計 この科目が基盤となる専門科目—すべての専門科目
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	国際協力とは	1. 国際協力の考え方の変遷 第二次世界戦争以降の取り組みと開発思想 先進国と途上国について 2. 国際機関、NGO、その他の援助機関の役割 途上国の援助ニーズにどのように応えてきたのかなどについて概説する。 3. 日本の国際協力の流れを解説する。 日本が受けてきた援助：LARA物資など ODAとは 4. 最近の国際協力の動向について	基礎看護学 目標3 G：国際協力 a) 国際交流 b) 国際機関への協力	保健医療福祉行政論 C：世界の公衆衛生と理念 a) 交際連合とWHOの保健政策 b) 国際協力とODA B：地域保健体系 ボランティア NPO
2	保健医療協力の必要性とその特徴	1. なぜ国際協力が必要なのか 疾病の治療や予防は、世界の人々が等しく健康を維持するために重要な対策である。 2. 保健医療協力の特徴 ・ 保健医療協力は相手国の国策としてサービス充実により、相手国の発展に寄与する。 ・ 新興感染症対策における世界的な取り組み 3. 看護の国際協力について		
3	開発途上国における保健医療の問題	1. 先進国と開発途上国について 2. 健康問題の格差 生活と環境 貧困と健康 栄養と感染症 3. 母子保健とジェンダー リプロダクティブヘルスの視点から、母子保健の現状を概説する。		
4				
5	協力活動の実践例	1. 青年海外協力隊活動 2. NGO難民キャンプでの活動例 3. JICA専門家		
6	国際協力で求められるもの	1. 国際協力のイメージと実際 2. 国際協力分野で求められる資質について JICA（政府ベース） 国際機関またNGO		
7	まとめ			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師

教科書	「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院）
参考書	「国際保健・看護」丸井英二・森口育子編（弘文堂） 「いのち・開発・NGO デビットワーナー」（新評論） 「私のしごと」緒方貞子（草思社） 「国際保健看護 ビバリーヘンリー」（看護の科学社） 「日本の保健医療の経験」（JICA国際協力総合研究所）「国際協力の地平」NGO活動教育研究センター（昭和堂） 「世界を翔けたナースたち」JOCV看護職ネットワーク編（青年海外協力協会） 「国際保健医療のおしごと」中村安秀編（南山堂） その他：雑誌「国際協力」「クロスロード」

授業科目名	国際医療協力演習	単位認定者	矢嶋和江
対象学年	第2学年	学期	前期集中
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	国際保健NGOの保健プロジェクトに参加
科目の目的	開発途上国における保健プロジェクト活動を通して、国際協力の現場での実践を学び、また看護の国際協力における役割を理解することを目的とする。
学習到達目標	1. 開発途上国の保健医療の現状が理解できる 2. 国際協力における国際機関やNGOの役割が理解できる。 3. 国際協力に求められる看護職の資質、またその役割が理解できる。 4. 異文化間コミュニケーションを通して、文化理解の必要性が理解できる。
関連科目	関連する教養科目—国際関係論、国際医療協力英語 関連する専門基礎科目—公衆衛生学、疫学・保健統計、医療民族学
成績評価方法	課題に対するレポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		<p>国際保健NGOの保健プロジェクトの現場を訪問し、ホームステイ等を通して、現地の保健ボランティアと共に行動し、住民教育を体験する。</p> <p>1. 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問予定国の歴史・文化（生活習慣など）政治・経済などの理解 保健医療従事者などを含めた教育体制 保健概要 その他 <p>3. 主催者側のオリエンテーション参加</p> <p>※ 研修予定 派遣国：タイ、カンボジア、東チモール等 派遣期間：7月下旬～8月下旬の間（7日間）</p> <p>備考 ※ 選択履修（任意参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> 希望者は早めにパスポートを取得、パスポートの期限は6ヶ月以上あること 予防接種は原則不要 摂取希望者：A型肝炎、破傷風、狂犬病、（インフルエンザ）などがある 費用20万円前後必要（別途） 	<p>基礎看護学 目標3 G：国際協力 a) 国際交流 b) 国際機関への協力</p>	<p>保健医療福祉行政論 C：世界の公衆衛生と理念 a) 交際連合とWHOの保健政策 b) 国際協力とODA</p> <p>B：地域保健体系 ボランティア NPO</p>

教科書	
参考書	

授業科目名	災害時生活体験	単位認定者	高木タカ子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義及び演習
科目の目的	災害が発生しライフラインが途絶した状況下で自活して行く為の、基本的な知識、技術や判断力、応用力を集団生活を通して体験する。
学習到達目標	1. ライフラインが断たれた時の対処法がわかる。 2. 集団行動を理解しその一員として行動できる。 3. 集団の中で生活しながら自分に気が付くことができる。 4. 日常生活の中で災害に対する準備ができる。
関連科目	教養科目—心理学・生活学・地域社会学 専門基礎科目—免疫・感染症学・看護学入門・救急法・栄養学・国際医療協力 専門科目—災害看護・地域看護学
成績評価方法	出席状況(講義・グループワーク・演習の参加) レポート提出及びその内容

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	科目オリエンテーション等	科目の内容・学習の進め方・自己学習 グループワークについて 個人として集団として生きるために何が必要か。 人間とは・健康とは・環境とは・看護とは・ 人間の基本的ニード・安全のニード・社会的ニード とは		
2	デイキャンプオリエンテーション	目的・内容・実施方法・準備について		
3	災害とは、災害の種類とその特徴 災害に対する対処 個人と集団	個人：自分の命を守る。健康を維持する。 私達はそれ以外に職業人としての役割がある。 集団：地域・市町村県・国		
4	災害時生活体験のオリエンテーション 演習第1回 デイキャンプ(1日) 5/20(土) 北毛青年の家 費用の目安(昨年実績)1,850円 演習第2回 災害時生活体験 (2泊3日) 8/29・30・31 高山キャンパス校庭 費用の目安(昨年実績)11,860円 ※第1回、第2回の費用に交通費は含まない	目的・目標・内容・実施方法・準備について デイキャンプ内容 ①集合、整列 ②薪で飯盒炊飯 ③班毎の食事 ④食事の後始末 ⑤点呼(人員確認) ⑥キャンプファイヤー ⑦グループ評価 デイキャンプグループ評価発表 災害時生活体験実施 ①集合、整列、点呼、テント設営 ②災害食体験 ③簡易トイレ体験 ④キャンプファイヤー ⑤寝袋体験 ⑥整理整頓 ⑦講義：心肺蘇生法・老年体験・災害ビデオ学習 災害時生活体験評価発表		

教科書	「災害看護」(メディカ出版) 「看護の基本となるもの」バージニアヘンダーソン著(日本看護協会出版会)
参考書	「共育キャンプ高木学校(保助看学生のための体験学習実践記録)」高木タカ子著(ミリオン書房) 「関東大震災」吉村昭著(文春文庫) 阪神大震災に関する資料 名古屋地方における大水害 中越地震に関する資料 海外の大津波の資料 大雪による災害・新聞・週刊誌・雑誌の切り抜き等

授業科目名	看護学概論	単位認定者	鹿村眞理子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護の主要概念を学ぶことで、看護の独自性を学ぶ。また、社会の変化とともに発展してきた看護の歴史、看護理論、看護と法律、看護倫理等についての理解も深める。看護の役割についての明らかにすることがこの科目の目的である。
学習到達目標	1. 看護の主要概念である人間、環境、健康、看護について理解する。 2. 主な理論家の構築した看護理論を学び、看護の本質を考える。 3. 護の歴史、看護と法律、看護倫理等を学び、社会における看護の役割を明確にする。
関連科目	関連する教養科目—心理学 生命倫理 家族学 医療民俗学 環境論 関連する専門基礎科目—発達心理学 看護学入門 健康管理論 この科目が基盤となる専門科目—専門科目のすべて
成績評価方法	課題に対するレポートと定期試験により評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護とは	看護師とはどんな職業か、看護職の果たす役割と法律について学ぶ。	必修問題 I 5. 保健師助産師看護師法 A. 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務、b) 看護師に禁止されている業務、c) 守秘義務 d) 業務従事者届 社会保障制度と生活者の健康目標 4 B. 保健師助産師看護師法 a) 目的・定義、b) 免許、 c) 業務、d) 守秘義務 B. 看護職員 a) 養成制度、b) 就業状況 目標 I 1. 看護の基本となる概念 A. 看護の本質 a) 対象、b) 役割、c) 機能 C. 人間にとっての健康 a) 健康の捉え方、b) 健康に影響を与えるもの D. 生活と健康 a) 生活のリズムと健康のかかわり、b) 生活習慣と健康のかかわり、c) 生活の要素と健康のかかわり、d) QOL 必修問題 I 2. 健康と生活 A. 生活習慣 a) 食事・栄養、b) 睡眠、c) 運動、d) 飲酒、e) 喫煙 必修問題 II 1. 人間の特性 A. 人間と欲求 a) 基本的欲求、b) 社会的欲求 B. 患者の特性 a) QOL、b) 患者ニーズ、 c) 健康に対する意識、 d) 疾病に対する意識、 e) 疾病・傷害の受容過程 3. 患者と家族 a) 家族関係、b) 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響 目標 1 1. 看護の基本となる概念 B. 看護の対象としての人	
2	健康とは	健康の概念と健康の成立条件および QOL について学ぶ。		
3	健康とは	自己の健康観を明らかにする		
4	対象としての人間	対象である人間の基本的ニードや人間をとりまく環境等について学ぶ。		
5				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準		
			看護師	保健師	
6	看護の歴史	看護の誕生とその発展について学ぶ。 主な看護理論とその特徴について学ぶ。 医療事故について考える。 看護職の働く場と保健医療福祉の連携について学ぶ。	間 a) 人間のとらえ方、b) 人間と環境		
7	看護理論		必修問題Ⅱ 4. 主な看護活動展開の場と看護の機能		
8	医療事故		A. 医療施設 a) 病院、b) 診療所、c) 助産所、d) 老人保健施設		
9	看護の役割と機能		目標3 1. 看護の役割と機能を支えるしくみ A. 看護活動の場 a) 地域における看護活動、b) 医療施設における看護活動、c) 保健福祉施設における看護活動 B. 継続看護 a) 施設内から在宅への継続、b) 退院計画および退院指導、c) 経時的に変化する継続看護		
10	看護の役割と機能		必修問題Ⅱ 4 おもな看護活動展開の場と看護機能 D. 関連職種との連携 a) 関連する職種 b) チーム医療 c) 看護の役割 目標3 c. 保健医療福祉の連携 a) 他職種の役割、b) 他職種との連携 E. 専門職能団体の活動 a) 専門職能団体の役割と機能 F. 看護行政 a) 看護職員の確保、b) 看護職員の資質の向上、c) 看護実践の質の向上		
11	看護倫理		専門職能団体の活動、看護行政について学ぶ。	必修問題Ⅰ 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳、b) 患者の権利、c) 自己決定権、d) インフォームドコンセント、e) ノーマライゼーション 目標Ⅰ E. 看護倫理 a) 患者の権利擁護、b) 患者のプライバシー保護、c) 看護師の倫理規定、d) 職業倫理	
12	医療の中の死		脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死などについて学ぶ。 看護職に関係する法規について学ぶ。	社会保障制度と生活者の健康目標4 C. 看護職と関係法規 a) 労働基準法、b) 労働条件の原則、c) 育児休業・介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>、d) 看護師等の人材確保の促進に関する法律、e) 医師法、f) 薬剤師法、g) 診療放射線技師法、h) 臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律、i) 理学療法士及び作業療法士法	
13	看護と関係法規		今での学習や文献を通して自己の考えをまとめる。 試験		
14	看護について考える				
15	試験				

教科書	「看護学概論」川村佐和子他（メディカ出版） 「患者取り違え事故はなぜ起きたか」吉田敏子（文芸社）
参考書	

授業科目名	看護過程論	単位認定者	鹿村眞理子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および演習
科目の目的	個人・家族・集団に対して、より良い看護ケアを提供するために必要な看護過程を展開できる基礎的能力を養う。
学習到達目標	1.看護過程に関連する用語の定義を述べることができる。 2.一次アセスメント・フォーカスアセスメントの違いが説明できる。 3.患者目標と達成の時期の設定の仕方を述べるができる。 4.看護診断過程を理解し、実際に行うことができる。 5.ケアプラン・評価の仕方が理解できる。
関連科目	解剖学、生理学、薬理学、看護ケア方法論、看護ケア方法論演習、看護アセスメント演習
成績評価方法	レポート、演習の成果および貢献度、筆記試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護過程	看護過程を学習する意義と看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。	目標2	
2	看護過程	問題解決法、クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。	1 共通基本技術 F 観察の技術	
3	看護過程	看護過程の概念の変遷について学ぶ。	a 身体面のアセスメント b 精神面のアセスメント G 記録・報告	
4	観察	観察の技術、方法、用語と観察の優先順位、長所と欠点について学ぶ。	a 記録・報告の目的 b 記録の種類 c 記録・報告の条件	
5	データ	主観的データ・客観的データについて学ぶ。		
6	データ	データの収集方法について学ぶ。		
7	記録	記録の重要性、記録の種類、記録上の注意および記録の実際、管理、報告、審査等について学ぶ。		
8	記録	プロセスレコードの方法を事例を通して学ぶ。		
9	アセスメント	情報の分析と解釈について学ぶ。	目標1	
10	アセスメント	一次アセスメント・フォーカスアセスメントについて学ぶ。	2 看護の展開	
11	アセスメント	具体例を通して情報の判断の仕方を学ぶ。	A 対象者の全体像の把握 a 情報の収集と分析 b 問題の明確化	
12	看護診断	看護診断の構成要素について学ぶ	B 目標設定	
13	看護診断	看護診断過程について学ぶ。	a 優先度の決定	
14	看護診断	看護診断過程について学ぶ。	b 患者と目標の共有	
15	看護診断	看護診断の決定方法について学ぶ	c 目標とその達成の時期の設定	
16	患者目標	患者目標の設定の仕方について学ぶ。	C 計画	
17	計画立案	計画立案について学ぶ。	a 行動計画の立案	
18	実施・評価	実施、評価について学ぶ。	D 期待される結果の明確化	
19	事例展開	ペーパーシュミレーションを通して看護過程の実際を学習する。	E 実施	
20	事例展開		a 手段の選択、b 対象者への説明と了解、c 看護の実施と対象者の反応の確認	
21	事例展開		F 評価	
22	事例展開		a 目標達成の評価、b 看護過程展開の評価、c 再計画	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
23	事例展開	グループ毎に発表し、模範例を確認する。		
24	事例展開			
25	発表			
26	発表			
27	発表			
28	発表			
29	発表	筆記試験		
30	試験			

教科書	「看護過程と看護診断」江川隆子（ヌーヴェルヒロカワ） 「NANDA 看護診断 定義と分類」北米看護診断協会（医学書院） 「看護データブック」新井治子他（医学書院） 「関連図の書き方をマスターしよう」（医学芸術社） 「基準看護計画」（照林社）
参考書	「情報収集・アセスメント」古橋洋子（学研）

授業科目名	看護ケア方法論	単位認定者	鹿村真理子・城生弘美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護ケアの本質、患者－看護者の援助的人間関係、看護ケアの基本を学ぶ。看護におけるケアとは何かを理解することがこの科目の目的である。
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学ぶ。 2. 人間の健康に関わる生活行動について学ぶ。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための看護ケアの方法について、根拠に基づいて理解する。
関連科目	関連する教養科目－心理学 環境論 関連する専門基礎科目－生理学 発達心理学 この科目が基盤となる専門科目－看護学に関連する科目全て
成績評価方法	出席状況 レポートおよび定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護ケアとは何か	知識・技術・態度を統合した看護ケアについて、ケアの本質・看護ケアにおける人間関係の必要性について学ぶ。	必修問題IV 1. 基本技術 A. コミュニケーション a) 言語的コミュニケーション b) 非言語的コミュニケーション 目標 2 1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立発展させるための技術 a) コミュニケーション技術 b) カウンセリング技術 c) グループワーク、グループダイナミクス b. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導 B. バイタルサイン a) 観察と測定 目標 2 1. 共通基本技術 F. 観察技術 a) 身体面のアセスメント(体温、脈拍、血圧、呼吸、意識、身体計測) b) 精神面のアセスメント(不安、恐怖)	
2	コミュニケーション	効果的にコミュニケーションを成立させる理論と技術について学ぶ。相互作用とコミュニケーションについて学ぶ。看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。		
3	バイタルサイン	生命の徴候を正確に把握する方法について学ぶ。		
4	療養環境について	人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。		
5	安全について	医療者が対象者の安全をどのように確保すべきかについて学ぶ。		
6	感染予防について	医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。		
			必修問題IV 3. 患者の安全・安楽を守る技術 A. 療養環境 a) ベッド b) 病室環境 必修問題IV 3. 患者の安全・安楽を守る技術 B. 医療安全対策 a) 転倒・転落の防止 目標 2 1. 共通基本技術 D. 事故防止 a) 安全管理対策(システム、機器点検) b) 転倒・転落の防止 必修問題IV 3. 患者の安全を守る技術 C. 院内感染防止対策 a) スタンダードプリコーション b) 手洗いの方法 c) 無菌操作 d) 滅菌と消毒の方法 e) 針刺し・切傷の防止 f) 感染性廃棄物の取り扱い 目標 2 C. 安全を守るための技術 a) 感染コントロール(無菌操作、手洗い、感染症の取り扱い、針刺し事故防止)	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	安楽について	医療者にとっての安楽な方法および対象者にとっての安楽な方法について学ぶ。	目標 2 1. 共通基本技術 E. 効率的で安楽な動きをつくり出す技術 a) ホイメカニクス b) 安楽な姿勢	
8 9	清潔保持について 清潔保持について	清潔保持に関する生理的メカニズムを理解する。さらに、対象者の清潔に関するニーズについて学ぶ。	必修問題IV. 2 日常生活援助技術 C. 清潔 a) 入浴の介助 b) 清拭 c) 口腔ケア d) 洗髪 e) 部分浴 f) 陰部洗浄 g) 整容 h) 寝衣交換	
10	排泄援助について	排泄に関する生理的メカニズムを理解する。さらに、対象者の排泄に関するニーズについて学ぶ。	B. 排泄 a) 床上排泄	
11	食生活と栄養	食事と栄養に関する基礎知識とその意義について学ぶ。さらに、対象者の食事に関するニーズについて学ぶ。	A. 食事 a) 食事の環境 b) 食事介助の方法 c) 誤嚥の予防	
12	休息・睡眠	休息・睡眠の意義とそのメカニズムを理解する。休息の取りすぎに関しての弊害について学ぶ。	D. 活動・休息 a) 睡眠 b) 移動・移送 c) 廃用性症候群の予防 d) 褥瘡の予防	
13	活動・運動	活動・運動の意義を理解し、人間が健康生活を送るために必要な知識について学ぶ。		
14	記録・報告	看護ケアの実施および評価に伴う記録・報告について学ぶ。	目標 2 1. 共通基本技術 G. 記録・報告 a) 記録・報告の目的 b) 記録の種類 (POS、フォーカスチャートを含む) c) 記録・報告の条件 (情報開示を含む)	
15	試験	ペーパー試験を実施し、基本的知識の確認を行う。		

教科書	「基礎看護技術」 川村佐和子他 (メディカ出版) 「看護データブック」 神田清子他 (医学書院)
参考書	

授業科目名	看護ケア方法論演習	単位認定者	保坂さえ子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義と演習
科目の目的	看護ケア方法論における学習を踏まえ、対象のニーズに応じた看護ケアのために必要な基本的技術を習得する。
学習到達目標	学内での演習により、生活環境整備、身体の清潔と衣生活、栄養と食事、排泄、活動と運動、休息と睡眠、リラクゼーション、バイタルサインについて基本的技術を習得する。
関連科目	関連する教養科目—心理学 生活学 環境論 関連する専門基礎科目—主に看護学入門 看護学概論 看護ケア方法論 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学 生化学 栄養学 病態栄養学 カウンセリング この科目が基盤となる専門科目—看護学に関連する科目全て
成績評価方法	出席状況 筆記試験及び実技試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4	生活環境について	健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。 ベッドメイキングの種類とその方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。	必修：IV3 安全・安楽を守る技術 A療養環境 a)ベッド b)病室環境 一般：目標2 基本的日常生活援助技術 A環境を整える技術 a)環境の整備 b)病床の整備	
5 6 7 8	身体の清潔保持と衣生活について	皮膚粘膜の解剖・生理の知識を基に、対象のニーズに応じた清潔保持についての援助方法を学ぶ。 全身清拭、寝衣交換の方法を習得する。 洗髪、口腔ケアの方法を習得する。	必修：IV2 日常生活援助技術 C清潔 a)入浴の介助 b)清拭 c)口腔ケア d)洗髪 e)部分浴 f)陰部洗浄 g)整容 h)寝衣交換 一般：目標2 2基本的日常生活援助技術 D身体の清潔の援助技術 a)清潔行動のアセスメントと援助方法 b)身体各部の清潔の援助方法 c)褥瘡の予防、処置 一般：E衣生活の援助技術 a)衣生活を調整する能力のアセスメントと援助方法 b)病衣の選択 c)寝衣の交換	
9 10 11 12	排泄援助について	排泄に関する生理的メカニズムの知識を基に、対象のニーズに応じた排泄の援助方法を学ぶ。 便尿器の与え方、浣腸、導尿を習得する。	必修：IV2 日常生活援助技術 B排泄 a)床上排泄 b)導尿 c)浣腸 d)摘便 e)失禁のケア f)ストマ造設患者のケア 一般：目標2 C排泄の援助技術 a)排泄行動のアセスメントと援助方法 b)排泄物の観察 c)自然な排泄を促す援助方法 d)床上排泄の援助方法 e)浣腸 f)導尿	
13	食生活と栄養	食事と栄養の基礎知識を理解し、健康レベルと食行動	必修：2. 日常生活援助技	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14		の自立度に応じた食事の援助方法を学ぶ。 さまざまな食行動の自立度に応じた食事の方法を習得する。 健康状態に応じた栄養法の実際を習得する。	術 A食事 a)食事の環境 b)食事介助の方法 c)誤嚥の予防 一般：2基本的日常生活援助技術 B食生活の援助技術 a)健康な食生活 b)栄養状態の評価、c)摂食行動のアセスメントと援助方法、d)病人の食事、e)経管栄養 f)経静脈栄養法	
15 16 17 18	活動と運動	活動・運動の意義を理解し、自立度に応じた活動・運動の援助方法を学ぶ。 体位変換、安楽な体位の方法を習得する。 ストレッチャー・車椅子の移送方法を習得する。	必修：2. 日常生活援助技術 D活動・休息 a)睡眠 b)移動・移送 c)廃用性症候群の予防 d)褥瘡の予防 Eボディメカニクス a)体位 b)体位変換の基本 一般：1 共通基本技術 E効果的で安楽な動きをつくり出す技術 a)ボディメカニクス b)安楽な姿勢 2基本的日常生活援助技術 F活動・運動の援助技術 a)活動・運動の能力のアセスメントと援助方法 b)体位変換 c)床上移動 d)車椅子への移動・移送 e)輸送車への移動・移送 f)レクリエーション G休息・睡眠の援助技術 a)休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法、b)安楽な休息・睡眠を促す方法 c)睡眠障害とその援助方法	
19 20	リラクゼーション	対象者の安楽で快適さを提供する技術について、その必要性を理解する。さらに対象のニーズに応じたリラクゼーションの援助を学ぶ。 筋弛緩法、マッサージの方法を習得する。		
21 22 23 24 25 26	バイタルサイン	生命の徴候(バイタルサイン)を正確に把握し、対象の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法を理解する。 ヘルスアセスメントの視点からバイタルサインの測定方法を学ぶ。 体温調節について対象のニーズに応じた電法の方法を習得する。	必須：基本技術 Bバイタルサイン a)観察と測定 必須：病態と看護 A症状と看護 a)発熱 必須：診療に伴う看護技術 H救急救命処置 a)気道の確保 b)人工呼吸 c)心マッサージ d)止血 e)体温の保持 E電法 a)電法の種類と適応 b)温電法の方法 c)冷電法の方法	
27 28	筆記試験			
29 30	実技試験			

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他(メディカ出版) 「ヘルスアセスメント」川村佐和子他(メディカ出版) 「看護データブック」神田清子他(医学書院)
参考書	「NANDA 看護診断 定義と分類」北米看護診断協会(医学書院)

授業科目名	看護アセスメント演習	単位認定者	須藤 絹子
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 (3 0 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義と演習
科目の目的	対象に応じた適切な看護援助が提供できるための基礎的看護技術を習得する。
学習到達目標	1. 看護技術の原理とその根拠及び援助の必要性を理解し技術を活用できる。 2. 安全でかつ、安楽な援助技術を習得する。
関連科目	教養科目群：人間、生活、成熟社会 専門基礎科目群：臨床科目群すべて 専門科目群：専門科目すべて
成績評価方法	定期試験および実技試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4 5	フィジカル・アセスメント 身体各部の計測	人間の健康レベルを把握するための、看護者によるフィジカル・アセスメントの技術を学ぶ。 身長・体重・胸囲・腹囲などの身体機能の計測の方法について学ぶ。		
6 7 8	安全・感染予防	安全の意義と安全を脅かす要因について学ぶ。 医療事故と医療過誤・予防策について事例を分析しながら考察する。 感染予防の意義を理解し、手洗いの重要性を認識できる。 基本的な滅菌操作ができる。	IV. 看護技術の基礎的知識を問う。 3. 患者の安全・安楽を守る技術 B. 医療安全対策 (a) 転倒・転落の防止 (b) 誤薬の防止 (c) 患者誤認の防止 C. 院内感染防止対策 a) スタンダードプリコーション<標準予防策> b) 手洗いの方法 c) 無菌操作 d) 滅菌と消毒の方法 e) 針刺し・切創の防止 f) 感染性廃棄物の取り扱い 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 1. 共通基本技術 C. 安全を守るための技術 a) 感染コントロール(無菌操作、手洗い、感染症の取り扱い、針刺し事故防止) D. 事故防止 a) 安全管理対策(システム、機器点検) b) 誤与薬・誤認の防止、転倒・転落の防止、人工呼吸管理	
9 10 11	健康教育 診療に伴う技術	個別及び集団指導について学ぶ。 診療の援助の目的、方法を理解し、実践できる。	3. 診療に伴う技術 A. 診察・検査 a) 診察・検査時の看護師の役割 b) 対象者の心理 c) 検査時の看護(尿・便・	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12 13 14 15	検査と看護	検査の目的と検査における看護師の役割について学習する 検査の種類と実施時の援助について理解する。	喀痰・血液の採取および検査、腰椎穿刺検査、X線検査、CT検査、内視鏡検査、心電図検査、超音波検査、核医学検査、基礎代謝検査、呼吸機能検査) 4. 診察に伴う看護技術 D. 採血 a) 使用物品 b) 穿刺部位 c) 手技	
16 17 18 19 20 21	吸入・吸引	吸入および吸引の種類と効果的な援助方法を演習を通して学ぶ。	B. 治療・処置 e) 吸引(口腔・鼻腔・気管・胸腔) f) 酸素吸入 g) 包帯法と創傷の管理 F. 酸素吸入 a) 酸素吸入時の原則 b) 酸素ポンベの取り扱い c) 酸素流量計の取り扱い d) 鼻腔カニューラ e) マスク G. 吸引 a) 口腔・鼻腔吸引 b) 期間内吸引 c) 体位ドレナージ B. 薬物療法 a) 与薬方法 b) 吸収・分布・代謝・排泄の機序 C. 輸液管理 a) 刺入部位の観察 b) 滴下速度 c) 輸液ポンプの取り扱い d) 安全・安楽	
22 23	包帯法	包帯の目的・包帯使用上の原則および包帯の用い方を学ぶ。	目標2: 基本的看護技術についての理解を問う。 3. 診察に伴う技術 C. 薬剤についての知識と取り扱い a) 薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む) b) 薬剤の取り扱い c) 与薬法(経口・注射(静脈注射を含む)、塗布・点眼・点鼻・吸入、経直腸) d) 副作用とその徴候・禁忌	
24 25 26 27 28	与薬と看護	薬物療法の意義・目的を理解し援助の方法を学ぶ 薬物療法における看護師の役割を学ぶ 与薬の方法を演習を通して習得する。		
29 30	実技試験 筆記試験			

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他 (メディカ出版)
参考書	

授 業 科 目 名	成 人 ・ 老 年 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける成人期、老年期の特徴を理解し、成人期、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 ライフサイクルにおける成人期、老年期の特性を理解する。 2 成人期、老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3 成人期、老年期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4 成人期、老年期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。
関 連 科 目	1年次に履修した専門基礎科目
成 績 評 価 方 法	レポート 筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	成人看護学の概要 成人看護の対象 成人各期の特徴と保健問題 成人保健1 成人保健2 成人保健3 成人保健4 成人保健5 成人看護の方法1 成人看護の方法2 成人看護の方法3 成人看護の方法4 成人看護の方法5 まとめ テスト	(牛込三和子) ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握 青年期の特徴と保健問題、壮年期の問題と保健問題 向老期の問題と保健問題 成人保健の動向と対策 生活習慣病の予防 成人保健と性 成人保健と労働 慢性疾患患者の看護方法1 生活習慣病 慢性疾患患者の看護方法2 難病 リハビリテーションアプローチを必要とする患者の看護 がん患者の看護1 がんの動向、がん治療と看護 がん患者の看護2 終末期医療とがん患者の看護	目標1:成人の生活と健康問題について理解する 1 成人の特徴 2 成人に特有な健康問題の特徴 目標2:成人を看護するときの基本的なアプローチについて理解する 1 成人の特性や能力に応じたアプローチ 目標3:成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解する 1 健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護 3 障害への適応と社会復帰への看護 4 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 5 終末期の看護	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	老年看護学の概要 老年看護の対象 老年期の特徴1 老年期の特徴2 老年期の健康問題 高齢者と社会 老年期の看護方法1 老年期の看護方法2 老年期の看護方法3 老年期の看護方法4 老年期の看護方法5 老年期の看護方法6 老年期の看護方法7 まとめ テスト	(伊藤まゆみ) ライフサイクルにおける老年期、人口学的指標からの老年期、健康指標からの老年期、生活の視点からの老年期 老年期の発達と成熟、高齢者の多様性 加齢に伴う変化の特徴、身体的変化、精神的変化、社会的変化 高齢者にとっての健康、高齢者の健康の特徴 高齢者と家族、高齢者と社会システム 高齢者とQOL 老年看護活動の特性 老年看護における倫理的課題 高齢者の観察 高齢者とのコミュニケーション 高齢者の障害受容への看護 終末期にある高齢者の看護、看取り終えた家族への看護	目標1:高齢者の特徴とその生活について理解する 1 老年期の理解 2 老年期を生きる人々の特徴 3 加齢に伴う変化 4 老年期を生きる人々の健康 5 高齢者をとりまく社会 目標2:高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解 1 老年看護学の基本的考え方 2 老年看護の基礎的技術 6 高齢者の終末期看護	

教 科 書	「新体系看護学 20 成人看護学概論・成人保健 老年看護学概論」野口美和子編集 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	「国民衛生の動向 厚生指標 52(9) 2005」(厚生統計協会) ほか、授業で紹介する

授業科目名	成人看護学 I	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	1 人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2 機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学習到達目標	1 呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、消化器疾患、内分泌代謝疾患、糖尿病、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2 呼吸機能障害、循環機能障害、消化機能障害、糖代謝障害をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成績評価方法	筆記試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 13 14 15	概論1 概論2 呼吸器疾患1 呼吸器疾患2 呼吸器疾患3 循環器疾患1 循環器疾患2 循環器疾患3 血液・造血器疾患1 消化器疾患1 消化器疾患2 内分泌代謝疾患1 糖尿病 神経系疾患1 神経系疾患2 テスト	(栗田昌裕)	疾病の成り立ちと回復の促進 目場3 回復にむけて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特定について理解を問う。 1 中枢神経機能の障害 A 脳機能の障害 2 生命維持機能の障害 A 生命の危機 B 呼吸機能の障害 C 循環機能の障害 D 造血機能に関わる諸機能の障害 3 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害 A 食の障害 B 消化管の機能障害 C 肝臓・胆のう・膵臓の機能障害 4 内部環境調節機能の障害 A 内分泌機能の障害	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	臨床看護総論 呼吸機能障害をもつ患者の看護1 同2 同3 循環機能障害をもつ患者の看護1 同2 同3 テスト1 栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者の看護 同2 同3 糖代謝障害の看護 同2 テスト2	(牛込三和子) 観察とアセスメント 検査・治療と看護、症状・障害と看護 慢性呼吸不全患者の看護 観察とアセスメント 検査・治療と看護、症状・障害と看護 慢性心不全患者の看護 消化・吸収障害の観察とアセスメント、看護 肝機能障害の観察とアセスメント 肝硬変患者の看護 観察とアセスメント 糖尿病患者の看護	成人看護学 目標4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う 1 呼吸機能障害をもつ患者の看護 2 循環機能障害をもつ患者の看護 3 栄養摂取・代謝障害をもつ患者の看護	

教科書	
参考書	

授業科目名	老年看護学 I	単位認定者	兔澤恵子
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 (3 0 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	高齢者は低下する機能又は残存機能をコントロールしながら日常生活に適応させ、自立した生活を送っている。高齢者が生命を維持するだけでなく Quality of Life の視点から日常生活への援助を捉え、個別性を尊重し健康生活を支える看護に必要な知識・技術の基礎を学ぶ。
学習到達目標	1) 高齢者の健康生活を支えるための看護について理解する。 2) 治療を必要とする高齢者への看護について理解する。 3) 介護保険制度を踏まえ高齢者の保健医療福祉施設における看護について理解する。
関連科目	1) 基礎科目群：老年心理学・教育学・家族学・生活学・地域社会学・性別の社会学・経済学・生物学基礎 2) 専門基礎科目群：解剖学・生理学・生化学・疾病の成り立ち・薬理学・緩和医療学・免疫感染症学・病態栄養学・臨床心理学・社会保障行政・カウンセリング 3) 基礎看護学・成人看護学 I ・成人看護学 II ・精神看護学・地域看護学
成績評価方法	終講試験、課題レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	1. 高齢者の健康を支える看護 2. 治療を受ける高齢者への看護	A 健康生活の維持 B 加齢に伴う身体的徴候と看護 C 事故・災害の予防と救急への対応 A 薬物療法 B 手術	目標 1-1 A 健康生活の維持 a) 食生活と栄養 b) 運動とレクリエーション c) 休息と睡眠 d) 排泄 e) 身だしなみ f) 性生活 g) 住環境 h) 対人関係と社会的活動 B 加齢に伴う身体的徴候と看護 a) 痛み b) かゆみ c) 不眠 d) しびれ e) 冷え f) 便秘 g) 振戦 C 事故・災害の予防と救急への対応 a) 転倒・転落 b) 熱傷 c) 窒息 d) 感染 e) 急変・救急時の看護 目標 1-2 A 薬物療法 a) 加齢と薬物動態 b) 疾患の重複による多剤投与 c) 副作用をまねきやすい薬物 d) 副作用の徴候の観察・評価 e) 副作用の予防 f) 服薬過誤の予防と看護 g) 薬物管理とリスクマネジメント B 手術 a) 検査・手術に関する説明と了解 b) 術前の指導と術中・術後の管理 c) 早期離床への援助 d) 術後せん妄と看護 e) 合併症の予防	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17 18	3. 介護保険と高齢者看護	C受療形態に応じた看護	C受療形態に応じた看護 a) 治療をうける高齢者の心身の特徴と看護 b) 入院 c) 外来、デイケア 目標 1-3	
19 20		A介護保険制度の理解と高齢者ケア	A介護保険制度の理解と高齢者ケア a) 解雇保険制度の理念と特徴 b) 仕組みの理解	
21 22		B高齢者保険サービス	B高齢者保険サービス a) サービスの理解と活用方法 b) 介護施設サービス c) 居宅介護サービス	
23 24 25		Cケアマネジメントとケアプラン	Cケアマネジメントとケアプラン a) ケアマネジメントと看護職者のケアマネジャーの役割 b) ケアプランの作成 c) チームケアと連携の方法 目標 1-4	
26		4. 高齢者の保健医療福祉施設における看護	A長期療養型病床群の特徴と看護	A長期療養型病床群の特徴と看護 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割
27 28		B老人保健施設の特徴と看護	B老人保健施設の特徴と看護 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割	
29		C特別養護老人ホームの特徴と看護	C特別養護老人ホームの特徴と看護 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割	
30		Dグループホームの特徴	Dグループホームの特徴 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割	

教科書	「系統看護学講座 20 老年看護学」 中島紀恵子 (医学書院)
参考書	

授業科目名	母性看護学概論	単位認定者	高木タカ子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	地域や家庭・家族を含めた生涯を通して性と生殖に関する母性看護の役割を理解する。
学習到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識、技術を使用し実践ができる。 女性の周期性の変化について口答で説明ができる
関連科目	教養科目—生命科学・生命倫理・家族学・性別の社会学 専門基礎科目—解剖生理学・栄養学・免疫学・病態学 専門科目—看護の専門科目
成績評価方法	出席状況 課題レポート 試験(臨時 定期)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	オリエンテーション 母性看護の主な概念	母性看護学概論を学ぶために 母性とは、セクシュアリティ リプロダクティブヘルツ/ライツ ヘルスプロモーション・ライフサイクル ライフスタイル・ジェンダー	1. 母性看護の概念 A 母性看護のおもな概念 a 母性とは b ジェンダー c 家族の発達	
2				
3	母性看護のあり方と倫理	母性看護とは あり方の本質と特質 実践の中核となる理念 母性の課題と展望	B 母性看護と倫理 a 妊産婦・胎児および新生児の権利と擁護 b 自己決定の尊重 c プライバシーの保護	
4				
5	母性看護の変遷	生命倫理と看護倫理 近代社会と母性看護	C 母性看護と法整備 a 地域における子育て支援 b 就労と母性 C 母体保護法 d 母子保健法	
6		母性看護に関する主な組織 法律 場と職種		
7		対象を取り巻く環境 家族・地域社会・生物学的環境		
8		男女共同参画社会・国際化		
9	性の分化と胎児期における生殖器の発育	性分化のメカニズム	2. 人間の性と生殖 A 人の発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子	
10		生殖器の形態・機能 女性外性器・内性器 男性性生殖器	B 性周期と生殖機能のメカニズム a 性周期とホルモン b 受胎のメカニズム	
11		女性生殖器の機能 月経周期 調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化	c 性行動 a 性反応 b 性感染症 D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医療	
12	現代女性のライフサイクル	女性のライフサイクルの変化—高齢化・小子化 多様化する女性のライフスタイル 高学歴化及び晩婚化・労働力率		
13		新婚期・育児期・発展期・充実期・向老期・老年期		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	女性のライフサイクルと健康	ライフサイクル各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期	3. 女性のライフサイクル各期における看護 A 思春期にある人々の看護 a 第二性徴 b 心理的特徴 B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義 b 不妊治療と看護 C 更年期にある人々の看護 a ホルモンの変化と閉経 b 骨粗しょう症の予防	
15	試験			

教科書	「系統看護学講座 専門 24 母性看護学概論」(医学書院)
参考書	

授業科目名	母性看護学 I	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必須

指導方法	講義 演習
科目の目的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。
学習到達目標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。
関連科目	教養科目：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目：発達心理学 免疫感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）
成績評価方法	課題に対するレポート、定期試験、出席状況、学習態度にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。		
2-5	母子保健と環境	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因：恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因：経済、教育、文化、医療など ・環境的要因：自然環境、人為的環境など	目標4 A 妊婦の看護 b) 妊婦の心理	
6-7	母子と健康生活	母子の健康問題を栄養、運動、喫煙、飲酒等の関連から学ぶ。	d) 妊婦の日常生活とセルフケア f) 親役割の準備	
8	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。	目標2 C 性行動 a) 性反応 b) 性感染症	
9-13	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。	目標4 A 妊婦の看護 c) 妊娠と不快症状 e) 出産・育児の準備 C 褥婦の看護 c) 褥婦の日常生活とセルフケア	
14	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。	目標1 C 母性看護と法整備 a) 地域における子育て支援	
15	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。	目標2 D 生殖をめぐる倫理	

教科書	「妊・産・褥婦のよくあるトラブル」早川有子、澤田只夫（医学書院）
参考書	必要時提示する。

授業科目名	小児看護学概論	単位認定者	木内 妙子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	次世代を担う存在である子どもとその家族の健康生活のために、小児看護が果たす役割と課題について学ぶ。今日の子どもが置かれている状況と、子どもが健やかに発育するための社会システム・保健医療システムを学び、子どもの健康問題解決のための方略について考察する。
学習到達目標	1. 現代社会における小児看護の意義と役割を理解する。 2. 子どもの成長発達・健康・生活の概念を理解する。 3. 子どもの生活援助に必要な基礎知識を理解する。 4. 子どもの健康な成長発達を支援するための社会システム・保健医療システムを理解する。
関連科目	母性・小児看護学（小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成績評価方法	講義への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	小児看護の理念	小児看護とは、小児看護と関連法、小児看護と倫理、	【目標1】 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護 ≪地域看護学Ⅱ≫ 6. 母子保健指導 B. 乳幼児期の成長発達と生活の特徴 ≪必修問題≫ I. 4. 看護の倫理 II. 2. 人間の成長と発達	
2	小児看護の歴史と将来	子どもの人権、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント		
3	子どもの健康	健康な子ども観、子どもが健康に生活するということ		
4	子どもと家族	健康な子どもの生活とライフサイクル、子どもの健康と家族の関係		
5	子どもの成長発達と看護	成長発達とは、成長発達の原則、成長発達と発達課題形態的発育と機能発達、精神・運動機能の発達		
6		成長・発達のアセスメントと評価、発達と環境		
7				
8	子どもの栄養と食生活	子どもの栄養の特徴、発達段階と栄養所要量		
9		発達段階と栄養摂取法の変化ー吸啜から摂食へ摂食機能の発達、乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養		
10	乳幼児期の子どもと健康生活	乳幼児期の子どもと健康生活、基本的生活習慣の確立と養育、乳幼児のいる家族への看護、子どもの生活と遊び、		
11				
12				
13	学童・思春期の子どもの健康生活と看護	学童期・思春期の健康生活、学童期・思春期の子どもの食生活、学童期・思春期の子どもがいる家族への看護		
14	子どもをまもるための政策・小児保健活動の実際	子どもをまもるための法律と政策、予防接種		
15		乳幼児期の保健・学校保健・思春期保健		

教科書	「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編（金原出版）2001
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント 3-4 章 2 節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子（メディカ出版）2004.

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 I	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義・演 習
科 目 の 目 的	常に成長・発達し続けている存在である子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受けどのように適応しようとしているのかを理解する。さらに、子どもに起りやすい健康障害の特徴や、それぞれに対する有効な介入方法、すなわち小児看護の実際について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 健康障害が、子どもと家族に与える影響とそれに付随した生活の変化について理解する。 2. 健康障害・闘病体験を通し、子どもと家族の反応や体験の意味付けについて理解する。 3. 子どもに起りやすい健康障害、症状、病理学的メカニズムを理解する。 4. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解する。 5. 健康障害を抱えた子どもと家族にとっての最善の利益に、小児看護が果たす役割を考察する。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学概論、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	現代社会に生きる子どもをめぐる諸問題	子どもにかかわる健康問題（児童虐待、子どもの食生活の変化、アレルギー疾患、体力低下、心の発達と病気など）	【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A. 病気や入院が子どもと家族に与える影響 B. ストレスを緩和するための看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族 <<地域看護学Ⅱ>> 6. 母子保健指導 D. 健康上のリスクをもつ母子への保健師動 a) 心身障害児 c) 子どもの虐待	
3 4	子どもをめぐる健康問題	事故防止と安全教育事故防止と安全教育, 子どもの事故対策の必要性, 子どもの事故の発生要因, 子どもの事故の実態, 事故防止の具体策・安全教育, 「健康日本 21」と「健やか親子 21」、子どもの救急処置の実際		
5 6 7 8	子どもと健康障害、子どもの闘病体験	病気, 病気や入院が子どもに与える影響, 病気や入院に対する子どもの反応（心理的混乱の表出方法）, 子どもの心理的混乱の程度に関する要因, 分離不安と看護の役割		
9 10	病気の子どもと家族	健康障害の子どもと家族, 家族のセルフケア機能, 家族の相互作用システム, 子どもの健康障害が起こす家族の変化, きょうだい児への影響, 家族システムへの影響, 家族のストレス因子, 家族のアセスメントと看護介入		
11 12 13 14	子どもへのインフォームド・コンセント、プリパレーション、検査や処置を受ける子どもの看護	プリパレーションとは、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント、子どもの権利の保障、プリパレーションの方法と内容、プリパレーション実施のプロセス、乳幼児期の子どもへの接近方法		
15 16 17 18	子どものヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント	成長発達のアセスメント, フィジカルアセスメント, 身体発育の評価（観察・計測・指数, 標準値との比較など）精神・運動機能の発達評価, 子どもの一般状態の把握, 子どものバイタルサインの測定・正常範囲と正常逸脱範囲, 病気の子どもの観察方法, 具体的観察のトレーニング		
19 20 21 22	子どもの主要症状別看護	子どもの身体状況が変化しやすい理由＝機能的特徴, 子どもの機能的発達の特徴（呼吸・循環・体温・消化・水分代謝など）, 子どもが起こしやすいおもな症状のメカニズムとその看護（不機嫌、発熱、脱水、下痢・		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
23 24	障害のある子どもと 家族の看護	嘔吐、けいれんなど) 障害児の療育と看護、家族支援、障害児と家族を支える社会システム、生育限界と倫理問題		
	病気や障害をもつ子どもと家族に対する Social support	子どもの闘病を支える各種団体、NPO 法人などの活動の実際、病気の子どものめぐる社会状況の変化		
25 26	手術を受ける子ども と家族の看護	子どもへの全身麻酔、手術前後の看護、小児外科治療の現状と看護、Day surgery、外来における看護など		
27	病気の子どもの安全	病気のこどもに起こりやすい事故、子どもの特徴から治療に関連した事故、検査や処置に関連した事故、生活の中で起こる事故、子どもの事故を防ぐための看護		
28 29 30	小児看護学技術演習	乳児の抱き方、乳児のおむつ交換、 子どもの観察（バイタルサインの測定など）、 治療を受ける子どもの固定・抑制方法 など		

教科書	1. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第 10 版」奈良間美保他著（医学書院）2003 2. 「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編（金原出版）2001
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子（メディカ出版）2004.

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	長 野 勝
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人として生きていく上で、心がいかに大きな働きをもつかを正しく理解するために、心の発達と健康、心の育みに影響を与える内外の環境のありようを学び、精神保健の位置付け及び機能について理解する。
学 習 到 達 目 標	1. 心と身体の間連を知る。 2. 心の健康と障害の捉え方、社会化とメンタルヘルスの関係、精神に障害をもつ人が感じる世界、その援助の本質を理解できる。
関 連 科 目	「解剖学」「発達心理学」「家族学」「精神臨床看護学」他
成 績 評 価 方 法	定期試験、授業の中で指示した提出課題

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	心とは	脳と心 心(精神)と身体の関係	目標 1-1 精神の健康 A 精神の構造, B 精神の機能と障害	
2	〃			
3	精神看護学の考え方	心の健康・不健康, 心の病気の考え方 精神看護学における看護師の役割	目標 1-1 精神の健康 C クライシス, D リエゾン 目標 2-1 精神看護の基本概念 D 看護モデル	
4	〃			
5	心の健康	心の健康維持	目標 2-1 精神看護の基本概念 A 生物学的モデル, B 精神分析モデル,	
6	心の発達と健康	心の発達理論 成長各期の発達	目標 2-1 精神看護の基本概念 C 成長発達モデル	
7	〃			
8	人間関係と心の働き	人間関係の中での心の問題 心の問題への対応	目標 1-1 精神の健康 C クライシス, D リエゾン 目標 2-1 精神看護の基本概念 D 看護モデル	
9	〃			
10	環境と心の働き	環境と心の健康 教育の場と心の健康 職場と心の健康 地域社会と心の健康	目標 2-1 精神の健康 C 成長発達モデル	
11	〃			
12	危機状況と心の働き	発達段階での危機の諸相と危機介入 医療現場における危機の諸相 災害時など特殊な状況における危機の諸相	目標 2-1 精神看護の基本概念 C 成長発達モデル 目標 2-2 看護援助技法 B 精神状態・問題行動と看護援助方法	
13	〃			
14	地域保健活動の展開	精神保健の概念 地域精神保健福祉活動	目標 3-2 地域精神保健 C 地域生活支援の技術	
15	わが国の精神保健福祉制度	精神保健福祉の変遷 精神保健福祉法と医療・行政	目標 3-2 地域精神保健 A 精神保健福祉の法制化	

教 科 書	・「新体系看護学 32 精神看護学① 精神看護概論・精神保健」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	・「アダルトチルドレンと家族」斎藤学 (学陽書房) ・「驚異の小宇宙・人体Ⅱ脳と心」養老孟司他 (NHK 出版)

授 業 科 目 名	精 神 臨 床 看 護 学	単 位 認 定 者	長 野 勝
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 演習(看護過程)
科 目 の 目 的	精神に障害をもつ人に見える世界・心情を科学的にも説明することができて, その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。
学 習 到 達 目 標	1. 精神に障害をもつ人と偏見なく関われる。 2. 自分の心の問題と関連させて精神障害を考えられる。 3. 精神の健康な部分と病的部分とを正しく見分けられる。 4. 精神に障害をもつ人個々に必要な看護を科学的説明できる。
関 連 科 目	「精神看護学概論」「精神地域看護学」「心理学」「地域社会学」「解剖学」「疾病の成り立ち」「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護カウンセリング」「看護過程論」
成 績 評 価 方 法	定期試験と授業の中で指示した提出課題

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 5	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について説明する。精神保健法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者一看護者関係、観察のポイント等について説明する。	目標 3-1 精神医療看護の歴史と人権 A. 精神医療看護の変遷 a: 欧米における精神医療の歴史 b: 日本における精神医療の歴史 C: 精神医療における看護師の役割 B. 患者の権利 a: インフォームド・コンセント b: 行動制限 c: 隔離室の使用 C. リスクマネジメント a. 自殺・自殺企図 b. 転倒 c. 誤飲 d. 誤薬 e. 院内感染	
6 8	精神状態・症状別看護援助	精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、看護援助の計画・実施に活かせるよう学習する。	目標 2-2 看護援助技法 A. 症状アセスメント a. 不安 b. 抑うつ c. 幻覚 d. 妄想 e. 強迫 f. せん妄 g. 痴呆 h. 離脱症状 B. 精神状態・問題行動と看護援助方法 a. 不安緊張状態 b. ひきこもり状態 c. 抑うつ状態 d. 躁状態 e. 幻覚妄想状態 f. 意欲減退状態 g. 不眠状態 h. 拒絶・拒否 i. 攻撃的行動 j. 操作・試し行為 k. 強迫行為	
9 11	精神の健康障害と看護援助 ・統合失調症患者の看護 ・感情障害患者の看護	統合失調症の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。統合失調症の精神病理、発症の背景。統合失調症の治療、統合失調症のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、混迷、自傷行為、攻撃、離院)にある患者に対する援助の方法について説明する。 軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。躁鬱病の精神病理、発症因子、躁鬱病の治療、神経症(ヒステリー、摂食障害、不登校等)心因反応の	目標 2-3 精神科治療と看護【必修問題(a. うつ b. 統合失調症)】 A. 精神疾患の診断基準 a. 統合失調症 b. 気分障害 c. 神経症および心因反応 d. 人格障害 e. 物質(アルコール, 薬物)関連障害 f. ストレス関連障害 g. 器質性精神疾患 h. てんかん. i. 心身症	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12 13 14 15 16 17 18 19 20 29 30	<ul style="list-style-type: none"> ・神経症および心因反応 ・人格障害 ・アルコール・薬物依存症 ・てんかん患者の看護 <p>その他の精神疾患患者への看護</p> <p>リエゾン精神科看護</p> <p>社会復帰活動と看護</p> <p>事例展開</p> <p>発表・まとめ</p>	<p>看護援助について事例を通して概説する。</p> <p>境界型人格障害, その他の人格障害・アルコール・薬物依存患者の看護, 症状精神病・人格障害者の看護等について概説する</p> <p>てんかんのさまざまな発作(大発作、小発作等)に対する看護援助及び日常生活指導について説明する。てんかんの神経学, 分類, 診断, 治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICU症候群: ICU・CCU等における術後管理の過程でみられる特異な精神障害について概説する。 ・児童。思春期の精神障害: 発達障害, 学習障害, 多動症, 知的障害など心理的発達プロセスと発達課題について概説する。 ・痴呆: 症候性の痴呆, 脳血管性痴呆, アルツハイマー病, その他の変性疾患による痴呆について概説する。 <p>精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者一看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。</p> <p>社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史的変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。</p> <p>精神の健康上の問題をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて概説する。</p> <p>事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開: グループワークと発表により看護診断について学習する。</p>	<p>目標 1-1 精神の健康</p> <p>D. リエゾン精神看護 a. 身体疾患をもつ患者の精神の健康 b. 患者・家族の精神の健康 c. 看護燭者の健康</p> <p>目標 3-2 地域精神保健</p> <p>A. 精神福祉の法制度 a. 精神保健福祉法の基本的考え方 b. 精神保健福祉法による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. ホームヘルプサービス</p> <p>B. 社会復帰・社会参加 a: 社会復帰施設 b: デイケア c: 小規模作業所 d: グループホーム e: 生活支援センター f: セルフヘルプグループ</p> <p>C. 地域生活支援の技術 a. 生活技能訓練 SST (Social Skill Training) b. 訪問看護 c. ケアマネジメント d. 看護相談面接</p> <p>D. 生活の場と精神保健 a. 家庭(育児ノイローゼ, 介護疲れ, 虐待) b. 学校(不登校, いじめ, 無気力) c. 職場(バーンアウト, 自殺, 過労死)</p> <p>目標 2-2 看護援助技法 A 症状アセスメント B 精神状態・問題行動と看護援助方法</p> <p>目標 2-3 精神科治療と看護</p> <p>A 精神疾患の診断基準 B 臨床検査 C 身体療法 D 精神療法 E 活動療法 F 治療環境</p>	

教科書	・「新体系看護学 33 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「精神障害者のクリニカルケア」川野雅資・長野勝 (メヂカルフレンド社) ・「精神看護学」田中美恵子 (医歯薬出版) ・「ナーシング・グラフィカ 32 精神看護学-情緒発達と看護の基本」出口禎子 (メディカ出版)

授業科目名	地域看護学概論	単位認定者	梅 林 奎 子
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義・演習
科目の目的	1 地域看護の歴史的変遷や実践例から地域看護の概念と役割について理解する。 2 地域の人々の健康を守る活動として公衆衛生看護の原理・原則について理解し、今後の活動について展望する。
学習到達目標	1 地域看護の歴史的変遷と地域看護の概念を理解する。 2 地域看護の理念、役割と対象・活動の方法を理解する。 3 包括医療体系のなかでの看護の包括性・継続性のある看護活動を理解する。 4 在宅看護の特質、対象と方法を理解する。 5 公衆衛生看護の理念、役割を理解する。 6 公衆衛生看護の活動の特徴、方法、成立条件を理解する。 7 公衆衛生看護の活動の場に応じた看護活動について理解する。 8 住民のニーズに合わせたダイナミックで、創造的な活動であることを理解する。 9 住民が自分たちの健康問題の解決に取り組む活動について理解する。 10 災害における保健師の活動と役割について理解する。
関連科目	教養科目群：人間、生活、成熟社会 専門基礎科目群：公衆衛生学、疫学、保健福祉行政 専門科目群：基礎看護学、母性・小児看護学、成人・老年看護学、精神看護学
成績評価方法	テスト、レポートも加味する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	地域看護の概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域看護の概念 地域看護と公衆衛生看護・在宅看護・在宅ケア 地域保健活動と公衆衛生活動と看護活動 在宅医療、学校保健活動、産業保健活動 	全ての看護師国家試験の出題基準に準ずる	諸外国の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の保健医療福祉制度における保健師（訪問看護師）の位置づけ
3 4	地域看護・在宅看護・公衆衛生看護の定義	<ul style="list-style-type: none"> 地域看護と公衆衛生看護 地域看護とは、在宅看護とは、公衆衛生看護とは 公衆衛生と公衆衛生看護 		公衆衛生活動の理念・目的、健康に関する認識の普及・啓発、自立的な生活への支援・強化、健康を志向する町づくり
5 6	地域看護・在宅看護・公衆衛生看護活動の理念と目的	<ul style="list-style-type: none"> 包括医療（総合保健医療）と看護の継続性 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーション、ICIDH、自己決定、住民参加、アドボカシー、男女共同参画、パートナーシップ、公衆衛生活動と地域看護活動・公衆衛生看護活動・在宅看護活動 		健康、生活、集団、地域社会、地域環境、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、パートナーシップ、ノーマライゼーション、アドボカシー、基本的人権の尊重・権利擁護、自立支援、自己決定、住民参加、男女共同社会、自治、制度・政策開発、リスクマネジメント、職業倫理
7 8 9	地域看護の発祥と公衆衛生看護の芽生えと変遷	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を学ぶ意味（文献を読みレポート提出） 地域看護の発祥（含在宅看護の歴史）と公衆衛生看護の歴史 <p>明治～大正初期・昭和初期～現在の概要</p>		公衆衛生看護、継続看護、ヘルスケアチーム
10 11	在宅看護に関わる現状 在宅看護の対象 在宅看護の成立条件	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護に関わる現状 在宅看護の対象 療養者、家族側、援助者側 		地域における保健活動・在宅ケアの方向づけ、サービスの提供体制の整備、指導・監視、コミュニティの健康水準の向上への提言、職員と住民の権利保障
12 13	地域看護をめぐる保健医療福祉施策と職種 介護保険の概要とケアマネージャーの役割	<ul style="list-style-type: none"> 包括医療と看護の継続性 保健医療福祉施設 保健医療福祉従事者 介護保険制度の概要 ケアマネジメントとケアマネージャーの役割 		訪問看護制度と介護保険、高齢者保健の動向、高齢者の生活と保健指導、在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導、要支援・要介護高齢者、痴呆高齢者、ターミナルケア、在宅ケア・在宅看護の理念と目的、在宅ケア・在宅看護活動の実態、在宅ケア・在宅看護の制度とシステム、地域ケアシステムの構築、ネットワークの形成と地域ケアコーディネーション、社会福祉の基本概念、地域福祉計画とコミュニティ、地域福祉権利擁護、成年後見制度、在宅ケアのためのマネジメント、対象者の疾病管理・憎悪防止、介護者への支援、介護の人的資源確保・開発、介護の物的資源確保・開発、在宅ケアのサービス活用・法的根拠、在宅看
14	在宅看護活動	<ul style="list-style-type: none"> 外来における継続看護と訪問看護 公的機関の訪問看護 訪問看護ステーション 		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	公衆衛生看護の法的基盤 看護職者の職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・開業看護職の活動 ・保健師助産師看護師法における保健師業務 ・専門職とは、専門看護師（地域看護） ・看護職者の倫理綱領、ICN 規律 ・公務員法 等 		<p>護管理、訪問看護ステーション管理、地域ケアシステムづくり、在宅看護の質評価・管理、介護保険制度、法体系、市町村の役割、居宅サービス事業者、居宅介護支援事業者とマネジメント</p> <p>諸外国の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の保健医療福祉制度における保健師（訪問看護師）の位置づけ、在宅ケア・在宅看護の変遷、社会背景健康、生活、集団、地域社会、地域環境、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション</p>
16	国際保健と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・WHO（世界保健機構）とWHO 憲章 ・ODA（政府開発援助） ・NGO（Non-government Organization） ・NPO（Non-profit Organization） 		<p>国際連合とWHO（世界保健機関）の健康政策、国際協力とODA（政府開発援助）、国際機関、NGO、発展途上国</p>
17 18 19	公衆衛生看護活動の展開方法	<ul style="list-style-type: none"> ・理念と目的、役割、展開の方法を実践例を通して（大西若菜氏の活動）（レポートと講義） レポートは講義の初日に提示（大西・ナイチンゲール） ・プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと公衆衛生看護 ・ナイチンゲールに公衆衛生看護の本質を探る（レポートと講義） 		<p>個別・集団の接近技法（ケースワーク、グループワーク）の各目的、特性、個別・集団指導の種類・特色、個別・集団指導と援助者の基本姿勢、対象選定と優先順位</p> <p>個人・家族、小集団、組織・機関、コミュニティ</p> <p>地域診断、計画策定・評価、地区活動、個別・集団の接近技法・技術、コーディネート、地域支援システム構築、地域資源開発</p> <p>災害の定義・分類、災害看護の目的、自然災害サイクルと災害医療・看護</p> <p>災害に関する法体系、災害支援の制度とシステム、災害支援に関する社会資源</p>
20	公衆衛生看護の役割 公衆衛生看護の活動の特徴と成立条件	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の役割 ・公衆衛生看護活動の特徴 ・公衆衛生看護の成立条件 		<p>避難のための支援必要者・実態把握、災害防止マニュアル、災害訓練、教育普及啓発（住民主体の防災対策への習慣づけ）、装備、救援・支援ネットワーク構築、初動体制、救護班・避難所での活動、トリアージ（定義・原則・プロトコル）、避難所・仮設住宅・在宅生活者への活動、PTSDへの対応、職員の心身の健康管理、ボランティアへの活動支援</p>
21	公衆衛生看護活動の対象	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆるライフステージ ・あらゆる健康レベル ・個人と家族と地域 		<p>関連情報の収集、情報ネットワークの構築、情報管理の方法、情報開示、マスコミ対策、個人情報の保護、サービス提供組織の診断、地域における看護の継続性、総合性の推進、他職種・他機関との事例検討、地域の特性をいかした社会資源の開発と管理、組織目的、各部門の役割、指示系統の確認、業務管理、他部門との連携、情報の共有、協働</p>
22	地域看護活動の方法と活動の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、健康相談、健康教育、地区組織活動、集団健診 ・活動方法の多様性 ・対象に合わせた方法の選択（目的、ニーズに合わせて方法をつくり出す） ・活動方法相互の関連づけ、有機的な連携と統合した活動 ・厚生労働省通知「保健師活動指針」 		<p>人材育成方針の策定（組織内）、現任訓練、教育研修の計画と評価、保健事業と人材育成の予算編成、目的、効率・効果、代替案の明確化、主務者、財務部門、議会への説明</p>
23 24	地域看護の成立条件 地域看護の対象と活動の場	<ul style="list-style-type: none"> ・地域看護の成立条件 ・個人・家族・集団・地域の特性と対応 ・行政機関（市町村・保健所） ・保健師活動指針 ・施策化 ・福祉関係機関 ・事業所 ・学校 		
25	地域看護と地域ケア体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療チームと体制づくり、在宅療養の支援体制等 ・看護職の役割（実践例を通して） 		
26 27 28	公衆衛生看護と災害	<ul style="list-style-type: none"> ・災害各期における公衆衛生看護の役割 		
29	公衆衛生看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・管理の基本 ・組織 ・人事管理、業務管理、予算管理、情報管理 ・危機管理（リスクマネジメント） 2年次に具体的には活動論の中で 		
30	まとめ テスト（60分）	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「最新保健学講座 地域看護学総論①」金川克子編（メヂカルフレンド社） ・「最新保健学講座 地域看護学総論②」平野かよ子編（メヂカルフレンド社） ・「最新保健学講座 地域看護活動論②」金川克子編（メヂカルフレンド社） ・「国民衛生の動向 2005」（財団法人厚生統計協会） ・「在宅看護論」杉本正子編（廣川書店）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「ナイチンゲール著作集1・2巻」薄井坦子他訳（現代社）

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論 I	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、家庭訪問、健康教育、地区組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 健康相談の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。 2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを展開できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法がわかる。 3. 健康教育の概念と理論を理解し、個人及び集団を対象とした健康教育を展開できる。 4. 地区組織活動支援の意義、地区組織活動支援に活用される理論、地区組織活動支援の方法がわかる。
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅱ、地域看護活動論Ⅲ
成 績 評 価 方 法	試験、演習内容、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康相談 1	健康相談の意義と目的		各発達段階における健康レベル別個人・家族及び小集団の健康課題と必要な接近技術・方法
2	健康相談 2	健康相談の対象		各発達段階における健康レベル別各種保健サービスの特性・活用、地域の健康特性と各種保健サービスの適用・優先順位
3	健康相談 3	健康相談の技術		健康相談・健康診査の目的、特性、対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理、相談・健康診査場面の設営・面接技術
4	健康相談 4	健康相談・健康診査の実施方法		地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案、参加対象と参加勧奨、実施準備・実践・評価、事後フォローアップ、参加対象への自立支援・組織化
5	健康相談 5	健康相談・健康診査の実施方法（演習）		
6	健康相談 6	〃		
7	家族保健指導 1	家族の発達課題、家族の持つ保健機能		家族の発達段階と課題、家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価、セルフケア行動、ウェルネス行動、学習行動、支援行動、求援行動、病気への対処行動、受療行動、遵守行動
8	家族保健指導 2	家族の問題把握と診断、家族支援		
9	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象		家庭訪問の目的、特性、対象特性、
10	家庭訪問 2	家庭訪問計画の作成、訪問準備、訪問目的の伝え方		初回・継続・拒否等への訪問技術、情報収集と問題把握、対象選定と優先順位、訪問指導計画、訪問準備・実践・評価、関係機関・職種との連携、社会資源の活用
11	家庭訪問 3	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導		訪問記録、報告
12	家庭訪問 4	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法		
13	家庭訪問 5	家庭訪問場面（演習）		
14	家庭訪問 6	〃		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	健康教育 1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論		<p>個別・集団の接近技法の各目的・特性、個別・集団指導の種類・特色、個別・集団指導と援助者の基本姿勢、健康教育に用いる基礎理論</p> <p>健康教育の目的、特性、対象、種類と特性、対象選定と優先順位</p> <p>地域のニーズ把握・アセスメント、事業の立案、参加対象と参加勧奨、指導案づくり・媒体の工夫、実施準備・実践</p> <p>健康教育の評価、事後フォローアップ、参加対象への自立支援・組織化</p> <p>グループの種類と機能、発展過程、グループダイナミクスの理論、グループ支援における保健師の役割、主体性の確立、自己洞察の深まり、エンパワメント、グループの育成と組織化支援、セルフヘルプグループの特徴と支援方法、健康学習を促進する媒体、人的つながり、組織の育成・支援、地域住民の自助、互助および共同活動の把握と推進、専門職、行政職、他の住民組織等との連携、グループ間での情報共有とネットワークワーキング、共同事業・共同活動の発展と支援、民間、NPO 支援</p>
16	健康教育 2	健康教育の対象・方法		
17	健康教育 3	健康教育の展開過程		
18	健康教育 4	健康教育計画と指導案		
19	健康教育 5	〃		
20	健康教育 6	健康教育の評価		
21 ～ 26	健康教育演習	<p>1. 目的</p> <p>地域の人々を対象とする集団教育の展開方法と、教育的働きかけのあり方を学ぶ。</p> <p>2. 実施方法</p> <p>グループ毎に対象とテーマを設定し、健康教育の計画を立案する。</p>		
27	地区組織活動支援 1	地区組織活動の意義と目的		
28	地区組織活動支援 2	地域住民の自助と互助、地区組織・専門職・自治体の連携、社会資源の活用		
29	地区組織活動支援 3	地区組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方		
30	試験			

教科書	「最新保健学講座 3 地域看護支援技術」村嶋幸代編（メヂカルフレンド社）
参考書	

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論 II	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	地域で生活する人々を捉える視点を教授し、人々の主体性を尊重した援助の基本姿勢を育成する。また、地域及び集団を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を教授する。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割、地域看護管理について理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1. 地域の特性と、そこで生活する人々の様子や健康・生活上のニーズを捉えることができる。 2. 地域で生活する人々の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢がわかる。 3. 地域及び集団の健康管理の考え方と方法がわかる。 4. 地域の関係機関、関係職種との連携の必要性とその方法がわかる。 5. 保健計画の意義、策定・遂行・評価のプロセスと看護専門職の役割がわかる。
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、地域看護活動論Ⅲ
成 績 評 価 方 法	試験、演習内容、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	地域保健活動の対象のとらえ方1	地域保健活動の対象、地域の健康問題の捉え方、健康問題の構造		人口構成の変化、疾病構造の変化、科学技術の発展、経済・産業構造の変化、地域社会の構造の変化、グローバル化、健康課題に対する組織の理念、健康課題への対処行動
2	地域保健活動の対象のとらえ方2	現代日本人の生活と健康問題		文化・価値観の多様化、生活構造、家族形態、労働形態、生活環境、社会病理
3	地域保健活動の対象のとらえ方3	対象の健康課題への対処行動		セルフケア行動、ウェルネス行動、学習行動、支援行動、求援行動、病気への対処行動、受療行動、遵守行動、健康課題に対する組織の理念、健康課題への対処行動
4	地域保健活動の展開 1 地区把握	地区把握・問題発見の考え方と方法		地区診断の概念、アセスメントの方法、日常的な保健師活動からの潜在・顕在ニーズの把握と分析、住民ニーズの把握と住民の意見聴取、既存の統計資料の分析と解釈、社会資源・関係機関の把握と分析、実態調査
5	地域保健活動の展開 1 地区把握	〃		情報分析と健康課題の提示、解決すべき健康問題の特定、優先順位の決定
6	地域保健活動の展開 2 地区診断	地区診断の目的と方法		計画の根拠の明確化、目的・目標の明確化と合意形成、活動内容・方法の選定と手順
7	地域保健活動の展開 3 活動方針・活動目標の設定	活動方針・活動目標の考え方と盛り込むべき内容、優先順位の考え方		保健師活動の必要量と稼働量、マンパワー・予算の確保
8	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	地域保健活動計画立案のプロセス		関係者との連絡・調整、事業の運営・モニタリング、計画変更などの調整
9	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	必要量-稼働量の算定、予算化、地域保健活動計画と住民参加		
10	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践	地域保健活動のモニタリングと計画の修正、地域保健活動の評価の目的と考え方		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11	と評価 地域保健活動の展開 5 活動計画の実践 と評価	地域保健活動の評価に用いる指標と評価方法		計画の達成状況の確認、評価、事業の効果測定、次年度への反映
12	保健計画と保健師の活動 1	保健計画とは		公共政策と保健計画、都道府県および市町村の基本的な計画の位置づけ 法制度や条例に基づく保健計画の策定、新たな健康課題を解決する事業計画の策定、保健政策と医療・福祉・教育・労働・産業等の政策との連携、評価、 計画策定への住民参加の促進、予算、予算編成と執行 地区診断の概念、アセスメントの方法、日常的な保健師活動からの潜在、顕在ニーズの把握と分析、住民ニーズの把握と住民の意見聴取、既存の統計資料の分析と解釈、社会資源・関係機関の把握と分析、実態調査 地域における保健活動・在宅ケアの方向付け、サービスの提供体制の整備、指導・監視、コミュニティの健康水準の向上への提言、職員と住民の権利保障、職業倫理
13	保健計画と保健師の活動 2	保健計画の構成、保健計画の策定過程、保健計画を実現させるための条件・方法、保健計画の評価		
14	保健計画と保健師の活動 3	保健計画の策定・推進・評価における保健師の役割 施策化の考え方と保健師の役割		
15	地域看護管理 1	管理の基本 組織		関連情報の収集、情報ネットワークの構築、情報管理の方法、情報開示、マスコミ対応、個人情報の保護、サービス提供組織の診断、地域における看護の継続性、総合性の推進、他職種・他機関との事例検討、地域の特性を活かした社会資源の開発と管理、組織目的、各部門の役割、指示系統の確認、業務管理、他部門との連携、情報の共有、協働、人材育成方針の策定（組織内）、現任訓練、教育研修の計画と評価、保健事業と人材育成の予算編成、目的、効率・効果、代替え案の明確化、主務者、財務部門、議会への説明
16	地域看護管理 2	人事管理、業務管理、予算管理、情報管理 危機管理（リスクマネジメント）		
17 ～ 26	〈演習〉 地区診断と地域保健 活動計画作成演習	1. 目的 地域住民のヘルスニーズの把握方法と、ヘルスニーズに対応させた地域保健活動の展開方法を理解する。 2. 方法 1) 対象地域: 高山村 2) 内容: 対象地域の地区把握・地区診断・健康問題の分析・地域保健活動計画の作成・地域保健活動評価計画の作成 3) 実施方法: グループ毎に母子、成人等の 1 領域を担当する。		
27 ～ 28	〈発表会〉 地域保健活動計画報告・検討会	各グループが作成した地区活動計画を発表し、内容について全体討議を行う。 助言者：高山村保健師		
29	まとめ			
30	試験			

教科書	「最新保健学講座 2 地域看護学総論②」平野かよ子編（メヂカルフレンド社）
参考書	「国民衛生の動向 2004」（財団法人厚生統計協会）

授業科目名	災害看護	単位認定者	山崎達枝
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、グループ学習、野外訓練
科目の目的	災害の種類や経時的医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として適切な救護活動に参加できる基礎的な知識を学ぶことを目的とする。
学習到達目標	1. 災害の定義及び災害看護の目的について理解できる 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的变化が理解できる 3. トリアージとタッキングが理解でき、適切な応急処置ができる 4. 災害時被災者の保健問題が理解できる 5. 被災者と援助者のための心のケア対策が理解できる 6. 病院施設の災害対策の必要性が理解できる
関連科目	教養科目群：心理学、地域社会学 専門基礎科目群：カウンセリング論、公衆衛生学、救急法、災害時生活体験 専門科目群：卒研以外のすべての科目
成績評価方法	課題レポートの提出 (出席率も反映する)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	災害とは	1. 災害とは 2. 災害サイクルと災害対策 3. 災害による援助ニーズの経時的变化	基礎看護学：目標2 3-E トリアージ	地域看護学IV 4.災害看護 A:災害の定義・分類, 災害看護の目的
2	災害医療・看護	1. 災害時、保健医療職に求められる役割 2. 災害時の経時的対応と求められる医療・看護およびリーダーシップ		a)災害の定義・分類, 災害看護の目的 b)、自然災害サイクルと災害医療・看護
3 4	災害時の行動	1. トリアージとは レスキュー(救出)とタッキング(負傷者分類)の原則 ※ペーパーシュミレーション 2. 応急処置法 演習：三角巾による固定法 搬送法		B:災害看護の制度とシステム a) 災害に関する法体系、 b) 災害支援の制度とシステム、 c) 災害支援に関する社会資源
5 6	野外救護訓練	※ 8時～12時まで 被災者及び救護者に分かれて、トリアージ、応急処置、搬送の一連の流れを実践し理解する。		C:災害予防対策と保健師活動 a) 避難のための支援必要者・実態把握、 b) 災害防止マニュアル、災害訓練、 c) 教育普及啓発(住民主体の防災対策への習慣づけ)、 d) 装備、救援・支援ネットワーク構築、
7	演習のまとめ グループ課題の検討	1. 演習全体について各グループでまとめ、発表 2. 最近の災害事例検討から 被災者の置かれた現状や保健医療職の活動などを調べ、被災者支援のあり方や災害被害軽減にむけた対策などについて検討する。 (最終日に発表)		D:災害応急対策と保健師活動 a) 初動体制、 b) 救護班・避難所での活 c) トリアージ(定義・原則・プロトコル)、
8	国・地域における災害対策	1. 災害支援に関する法制度やシステムの変遷 2. 行政における災害対策と防災マニュアル 災害時の保健所の機能など 3. 防災啓発活動の推進と地域防災力の強化		E:災害復旧・復興対策期と保健師活動 a) 避難所・仮設住宅・在宅生活者への活動、 b) PTSDへの対応、 c) 職員の心身の健康管理 d) ボランティアへの
9 10	災害時の保健問題と保健計画	1. 災害被災者の健康問題について ・ 避難形態による保健問題 (自宅・公立避難所、仮設など) ・ 家族形態による保健問題		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11	被災者と援助者のための体と心のケア	2. 避難センターにおける支援と保健活動 初期計画と保健プログラム 3. 在宅療養者に対する支援と保健活動 4. 仮設住宅生活者に対する支援と保健活動 5. 災害弱者（高齢者、妊産婦・乳幼児、病人など）に対する支援と保健活動 6. 在日外国人に対する支援と保健活動 ・外国人避難者対策 1. ASDとPTSDの症状とその予防、対策 2. 救援者のストレス対策 ※デブリーフィングの演習		活動支援
12	病院施設の災害管理	1. 病院の災害被害軽減対策について 2. 災害対応マニュアルと防災訓練 3. 災害発生時の入院患者管理 4. 多死傷者受け入れのための準備 5. 被災施設職員の健康管理と 災害支援ボランティアの受入れとその配置		
13	D I Gの演習	1. 地域及び職場の避難誘導を考えた訓練 D I Gのペーパーシミュレーション		
14	災害救援ボランティア	1. 災害救援ボランティアの役割 2. 被災地における援助の特徴 被災地の地理的、文化的背景や人口動態などを 考慮した支援ニーズについて概説 都市型災害、山間僻地型災害など 3. ボランティアとしての心構えと留意点 4. ボランティア参加時の準備		
15	まとめ	グループ学習の発表		

教科書	資料配布
参考書	「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」 「災害医療ガイドブック」(医学書院) 「阪神淡路大震災一その時看護は一」(日本看護協会出版会) 「災害とトラウマ」心のケアセンター編集(みすず書房) 「ナースのためのトリアージハンドブック」(医学書院) 「災害と日本人」(時事通信社) 「災害対策基本法」防災行政研究会編集(ぎょうせい)

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	城 生 弘 美 ・ 須 藤 絹 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者の反応が理解できることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各医療部門の役割・機能が理解できる。 2. 患者の健康回復に対する医療チームの関わり方を理解できる。 3. 医療チーム内の看護職の位置づけを理解できる。 4. 患者の入院中の物理的環境が把握できる。 5. 患者の一日の生活の流れがわかる。 6. コミュニケーションの目的が説明できる。 7. 患者の訴えを傾聴できる。 8. 患者の気持ちを尊重した言動をとることができる。 9. 患者との関わりの中から、自己の言動を振り返ることができる。 10. 看護援助を受けている患者の反応が理解できる。
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論、看護ケア方法論の統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる
成 績 評 価 方 法	出席状況（実習態度含む） 実習記録およびレポート 実習反省会での内容

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明		
	病院実習	病院施設内の見学実習および受け持ち患者とのコミュニケーション		
	実習反省会	病院実習で学んだことについての報告、質疑応答		

教 科 書	「看護学概論」川村佐和子（メディカ出版）
参 考 書	

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	城 生 弘 美 ・ 保 坂 さ え 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨地実習
科 目 の 目 的	実習要綱参照
学 習 到 達 目 標	実習要綱参照
関 連 科 目	実習要綱参照
成 績 評 価 方 法	評価表に基づき評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

教 科 書	
参 考 書	

